

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>本通報式の解説について</p> <p>(1) 定時飛行場実況気象通報式 (METAR) は航空気象定時観測気象報に、特別飛行場実況気象通報式 (SPECI) は航空気象特別観測気象報に用いる通報型式である。航空気象定時観測気象報には、着陸用飛行場予報 (TREND) を付加することができる。*</p> <p>(2) SPECI 報を通報するための基準は、付録Ⅳ. 特別観測の実施基準を参照のこと。</p> <p>(3) 着陸用飛行場予報 (TREND) を続けて報じる場合は、変化傾向 (TTTT=BECMG 又は TEMPO で始まる情報) 又は NOSIG のいずれかを報ずる。</p> <p>(4) 国内記事は、指示符 RMK の後に続けて報ずる。</p> <p>(5) 国内記事は国内のみに通報する。</p> <p>(6) 着陸用飛行場予報及び国内記事を付加する場合の通報の順序は次のとおりとする。 METAR 着陸用飛行場予報 国内記事</p> <p>(7) 群を構成している文字の数は一定していない。要素又は現象が起こらなかった場合は該当する群又は特に報告をする付加群は報じない。各群に対する詳細な通報上の注意は本文中の規則による。各群はそれぞれの群の通報上の注意に従って繰り返して報ずることができる。</p> <p>(8) 国外の METAR 報と SPECI 報の通報式については国際気象通報式の FM15 METAR 及び FM16 SPECI を参照すること。</p> <p>(9) 気象報の通報後、誤りを発見した場合は訂正報を報ずる。ただし、誤りの通報後すでに、又はそのとき新たに航空気象定時観測気象報もしくは航空気象特別観測気象報を報じたときは、訂正報は省略する。</p> <p>* 着陸用飛行場予報実施官署</p>	<p>本通報式の解説について</p> <p>(1) 定時飛行場実況気象通報式 (METAR) は航空気象定時観測気象報に、特別飛行場実況気象通報式 (SPECI) は航空気象特別観測気象報に用いる通報型式である。航空気象定時観測気象報には、着陸用飛行場予報 (TREND) を付加することができる。*</p> <p>(2) SPECI 報を通報するための基準は、付録Ⅳ. 特別観測の実施基準を参照のこと。</p> <p>(3) 着陸用飛行場予報 (TREND) を続けて報じる場合は、変化傾向 (TTTT=BECMG 又は TEMPO で始まる情報) 又は NOSIG のいずれかを報ずる。</p> <p>(4) 国内記事は、指示符 RMK の後に続けて報ずる。</p> <p>(5) 国内記事は国内のみに通報する。</p> <p>(6) 着陸用飛行場予報及び国内記事を付加する場合の通報の順序は次のとおりとする。 METAR 着陸用飛行場予報 国内記事</p> <p>(7) 群を構成している文字の数は一定していない。要素又は現象が起こらなかった場合は該当する群又は特に報告をする付加群は報じない。各群に対する詳細な通報上の注意は本文中の規則による。各群はそれぞれの群の通報上の注意に従って繰り返して報ずることができる。</p> <p>(8) 国外の METAR 報と SPECI 報の通報式については国際気象通報式の FM15 METAR 及び FM16 SPECI を参照すること。</p> <p>(9) 気象報の通報後、誤りを発見した場合は訂正報を報ずる。ただし、誤りの通報後すでに、又はそのとき新たに航空気象定時観測気象報もしくは航空気象特別観測気象報を報じたときは、訂正報は省略する。</p> <p>* 着陸用飛行場予報実施官署</p>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>[参考] METAR, SPECI, TREND, 国内記事の順序を以下に示す。</p> <p>通報型式 :</p> <p>METAR SPECI { COR CCCC YYGGggZ NIL dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x }</p> <p>METAR SPECI { VVVV { RD_RD_R/V_RV_RV_RV_Ri } 又は { RD_RD_R/V_RV_RV_RV_RV_RV_Ri } } w'w' { N_sN_sN_sh_sh_sh_s } 又は { VVh_sh_sh_s } 又は { CAVOK } 又は { WS RD_RD_R } 又は { WS ALL RWY }</p> <p>TREND { TTTTT TTGGgg dddffGf_mf_mKT } 又は { CAVOK } { w'w' } 又は { NSW } { N_sN_sN_sh_sh_sh_s } 又は { VVh_sh_sh_s } 又は { NSIG } 又は { NSC }</p> <p>国内記事 { RMK N_sCCh_sh_sh_s AP'_HP'_HP'_HP'_H V_DV_DV_DV_D } その他の事項</p>	<p>[参考] METAR, SPECI, TREND, 国内記事の順序を以下に示す。</p> <p>通報型式 :</p> <p>METAR SPECI { COR CCCC YYGGggZ NIL <u>AUTO</u> dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x }</p> <p>METAR SPECI { VVVV { RD_RD_R/V_RV_RV_RV_Ri } 又は { RD_RD_R/V_RV_RV_RV_RV_RV_Ri } } w'w' { N_sN_sN_sh_sh_sh_s } 又は { VVh_sh_sh_s } 又は { CAVOK } 又は { NSC <u>又は NCD</u> } 又は { WS RD_RD_R } 又は { WS ALL RWY }</p> <p>TREND { TTTTT TTGGgg dddffGf_mf_mKT } 又は { CAVOK } { w'w' } 又は { NSW } { N_sN_sN_sh_sh_sh_s } 又は { VVh_sh_sh_s } 又は { NSIG } 又は { NSC }</p> <p>国内記事 { RMK N_sCCh_sh_sh_s AP'_HP'_HP'_HP'_H <u>R1RRR</u> V_DV_DV_DV_D } その他の事項</p>	<p>・自動化関連</p> <p>・自動化関連</p> <p>・自動化関連</p>

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>1. 定時飛行場実況気象通報式 (METAR) 特別飛行場実況気象通報式 (SPECI)</p>	<p>1. 定時飛行場実況気象通報式 (METAR) 特別飛行場実況気象通報式 (SPECI)</p>	
<p>通報型式 :</p> <p>METAR 又は SPECI</p> <p>COR CCCC YYGGggZ NIL dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x</p> <p> $\left. \begin{array}{l} \text{VVVV} \\ \text{又は} \\ \text{CAVOK} \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} \text{RD}_R\text{D}_R/\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{i} \\ \text{又は} \\ \text{RD}_R\text{D}_R/\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{i} \end{array} \right\} \text{w'w'} \left\{ \begin{array}{l} \text{N}_s\text{N}_s\text{N}_s\text{h}_s\text{h}_s\text{h}_s \\ \text{又は} \\ \text{VW}_h\text{h}_s\text{h}_s \\ \text{又は} \\ \text{NSC} \end{array} \right\}$ </p> <p>TT'/T'_dT'_d QP_HP_HP_H 又は $\left\{ \begin{array}{l} \text{WS RD}_R\text{D}_R \\ \text{WS ALL RWY} \end{array} \right\}$</p> <p>注 : (1) 識別語 COR 及び NIL は、それぞれ訂正報及び欠測報に対して適宜使用する。</p>	<p>通報型式 :</p> <p>METAR 又は SPECI</p> <p>COR CCCC YYGGggZ NIL AUTO dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x</p> <p> $\left. \begin{array}{l} \text{VVVV} \\ \text{又は} \\ \text{CAVOK} \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} \text{RD}_R\text{D}_R/\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{i} \\ \text{又は} \\ \text{RD}_R\text{D}_R/\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{V}_R\text{i} \end{array} \right\} \text{w'w'} \left\{ \begin{array}{l} \text{N}_s\text{N}_s\text{N}_s\text{h}_s\text{h}_s\text{h}_s \\ \text{又は} \\ \text{VW}_h\text{h}_s\text{h}_s \\ \text{又は} \\ \text{NSC 又は NCD} \end{array} \right\}$ </p> <p>TT'/T'_dT'_d QP_HP_HP_H 又は $\left\{ \begin{array}{l} \text{WS RD}_R\text{D}_R \\ \text{WS ALL RWY} \end{array} \right\}$</p> <p>注 : (1) 識別語 COR 及び NIL は、それぞれ訂正報及び欠測報に対して適宜使用する。</p>	<p>・自動化関連</p> <p>・自動化関連</p>
<p>規則 :</p>	<p>規則 :</p>	
<p>1 通則</p>	<p>1 通則</p>	
<p>1.1 METAR は個々の飛行場実況文の最初に置く。</p>	<p>1.1 METAR は個々の飛行場実況文の最初に置く。</p>	
<p>1.2 一通以上の METAR 報又は SPECI 報を含む編集報の場合、個々の METAR 報又は SPECI 報を行頭から報ずる。</p>	<p>1.2 一通以上の METAR 報又は SPECI 報を含む編集報の場合、個々の METAR 報又は SPECI 報を行頭から報ずる。</p>	
<p>1.3 ある気象要素の悪化と他の要素の好転が同時に起こった場合 (例えば、雲の高さの低下と視程の好転) は一つの SPECI 報として報ずる。</p>	<p>1.3 ある気象要素の悪化と他の要素の好転が同時に起こった場合 (例えば、雲の高さの低下と視程の好転) は一つの SPECI 報として報ずる。</p>	
<p>2 CCCC 群—地点略号 個々の本文の通報地点は I C A O の国際 4 文字地点略号により報ずる (付録 地点略号表参照)。</p>	<p>2 CCCC 群—地点略号 個々の本文の通報地点は I C A O の国際 4 文字地点略号により報ずる (付録 地点略号表参照)。</p>	
<p>3 YYGGggZ 群—観測日時</p>	<p>3 YYGGggZ 群—観測日時</p>	
<p>3.1 観測日時の日付及び時分 (UTC) の次にスペースを置かずに指示符 Z を付す。</p>	<p>3.1 観測日時の日付及び時分 (UTC) の次にスペースを置かずに指示符 Z を付す。</p>	
<p>3.2 この群は、SPECI 報では常に含める。SPECI 報では、この群は報じた要素の変化が発生し、電文を作成完了した時刻とする。</p>	<p>3.2 この群は、SPECI 報では常に含める。SPECI 報では、この群は報じた要素の変化が発生し、電文を作成完了した時刻とする。</p>	
<p>4 削除</p>	<p>4 AUTO</p>	<p>・自動化関連</p>

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
	<p><u>4.1</u> <u>任意の識別語 AUTO は、気象報が人手を介さない完全な自動観測 (通常は完全な自動観測であるが、何らかの理由により人手を介した観測となった場合を含む) によるとき、風の群の前に挿入する。いずれかの要素を観測できない場合は、その要素の群を適当な数の斜線 (/) で表す。斜線の数は、通報できない特定の群の符号の数 (文字数) による。すなわち、視程の群は////、現在天気の群は//、雲の群は///又は/////と報ずる。</u></p>	
<p>5 dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x 群一風</p>	<p>5 dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x 群一風</p>	
<p>5.1 観測時前 10 分間の平均風向及び風速を dddff に報じ、スペースを置かず略語 KT を付加し、風速の単位がノットであることを示す。風向は真方位で、10 度単位とする。風向が 100 度未満のとき 0 を前置し、真北の風は 360 とする。風速が 10 ノット未満の場合は 0 を前置する。しかし、その 10 分間に風の特性に著しい不連続があった場合は、不連続以後の平均風速、最大瞬間風速、平均風向及び風向の変動を報ずる。このような場合、平均する時間間隔は短縮される。 注： (1) 風向の著しい不連続とは、変化前及び/又は変化後の風速が 10 ノット以上で、30 度以上の風向の変化が 2 分以上続くことをいう。 (2) 風速の著しい不連続とは、10 ノット以上の風速の変化が 2 分以上続くことをいう。</p>	<p>5.1 観測時前 10 分間の平均風向及び風速を dddff に報じ、スペースを置かず略語 KT を付加し、風速の単位がノットであることを示す。風向は真方位で、10 度単位とする。風向が 100 度未満のとき 0 を前置し、真北の風は 360 とする。風速が 10 ノット未満の場合は 0 を前置する。しかし、その 10 分間に風の特性に著しい不連続があった場合は、不連続以後の平均風速、最大瞬間風速、平均風向及び風向の変動を報ずる。このような場合、平均する時間間隔は短縮される。 注： (1) 風向の著しい不連続とは、変化前及び/又は変化後の風速が 10 ノット以上で、30 度以上の風向の変化が 2 分以上続くことをいう。 (2) 風速の著しい不連続とは、10 ノット以上の風速の変化が 2 分以上続くことをいう。</p>	
<p>5.2 風向が定まらず平均風速が 3 ノット未満の場合は、ddd=VRB と報ずる。風速がこれを上回る場合は、飛行場上空を雷が通過するときのように一つの風向を定めることができず、風向の変動幅が 180 度以上あるときにのみ VRB と報ずる。 注：風向の変動は、1 度単位で観測された値により判断する。</p>	<p>5.2 風向が定まらず平均風速が 3 ノット未満の場合は、ddd=VRB と報ずる。風速がこれを上回る場合は、飛行場上空を雷が通過するときのように一つの風向を定めることができず、風向の変動幅が 180 度以上あるときにのみ VRB と報ずる。 注：風向の変動は、1 度単位で観測された値により判断する。</p>	
<p>5.3 平均風速が 3 ノット以上で観測時前 10 分間に風向の変動幅が 60 度以上 180 度未満のときは、変動した両端の風向を時計回りに d_nd_nd_nVd_xd_xd_x に報ずる。その他の場合は、この群は報じない。</p>	<p>5.3 平均風速が 3 ノット以上で観測時前 10 分間に風向の変動幅が 60 度以上 180 度未満のときは、変動した両端の風向を時計回りに d_nd_nd_nVd_xd_xd_x に報ずる。その他の場合は、この群は報じない。</p>	
<p>5.4 “静穏” は 00000 とし、スペースを置かずに KT を付加する。</p>	<p>5.4 “静穏” は 00000 とし、スペースを置かずに KT を付加する。</p>	
<p>5.5 観測時前 10 分間に平均風速を 10 ノット以上上回る最大瞬間風速があった場合は、これを dddff の後の Gf_mf_m に報じ、スペースを置かずに KT を付加する。 その他の場合は、Gf_mf_m は報じない。</p>	<p>5.5 観測時前 10 分間に平均風速を 10 ノット以上上回る最大瞬間風速があった場合は、これを dddff の後の Gf_mf_m に報じ、スペースを置かずに KT を付加する。 その他の場合は、Gf_mf_m は報じない。</p>	
<p>5.6 風速が 100 ノット以上の場合は、2 桁の数字符号 ff 又は f_mf_m に代えて P99 を報ずる。</p>	<p>5.6 風速が 100 ノット以上の場合は、2 桁の数字符号 ff 又は f_mf_m に代えて P99 を報ずる。</p>	
	<p><u>5.7</u> <u>風が欠測の場合は////KT を報ずる。</u></p>	<p>・自動化を契機に欠測表現を規定</p>
<p>6 VVVV 群一卓越視程</p>	<p>6 VVVV 群一視程</p>	<p>・自動化関連 (表現修正)</p>
<p>6.1 卓越視程を VVVV に報ずる。</p>	<p>6.1 卓越視程を VVVV に報ずる。<u>ただし、識別語 AUTO が付加されている場合、観測装置により得られた観測時前 1 分間の視程の平均値を VVVV に報ずる。</u></p>	<p>・自動化関連</p>

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>6.2 <u>卓越視程</u>は次の通報区分によって報ずる。 (a) 5000m までは 100m 間隔。 (b) 5000m～9999m は 1000m 間隔。 (c) 10 km 以上は 9999 と報ずる。 注：<u>卓越視程</u>が通報値 (5000m までは各 100m, 5000m を超える場合は各 1000m) の間にある場合は、低い方の値を報ずる。</p>	<p>6.2 <u>視程</u>は次の通報区分によって報ずる。 (a) 5000m までは 100m 間隔。 (b) 5000m～9999m は 1000m 間隔。 (c) 10 km 以上は 9999 と報ずる。 注：<u>視程</u>が通報値 (5000m までは各 100m, 5000m を超える場合は各 1000m) の間にある場合は、低い方の値を報ずる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化関連 (表現修正) ・自動化関連 (表現修正)
<p>6.3 <u>卓越視程</u>が 1000m 未満のときは 0 を前置する。 例えば、800m は VVVV=0800 と報ずる。なお、0m は VVVV=0000 と報ずる。</p>	<p>6.3 <u>視程</u>が 1000m 未満のときは 0 を前置する。 例えば、800m は VVVV=0800 と報ずる。なお、0m は VVVV=0000 と報ずる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化関連 (表現修正)
<p>(新規)</p>	<p>6.4 <u>視程が欠測の場合は////を報ずる。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化を契機に欠測表現を規定
<p>6.4 文字群 CAVOK 規則 10 を適用する。</p>	<p>6.5 文字群 CAVOK 規則 10 を適用する。<u>ただし、識別語 AUTO が付加されている場合、規則 10 は適用しない。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化関連
<p>7 $\left. \begin{array}{l} RD_R/V_RV_RV_Ri \\ \text{又は} \\ RD_R/V_RV_RV_RVV_RV_Ri \end{array} \right\} \text{群一滑走路視距離 (RVR)}$</p>	<p>7 $\left. \begin{array}{l} RD_R/V_RV_RV_Ri \\ \text{又は} \\ RD_R/V_RV_RV_RVV_RV_Ri \end{array} \right\} \text{群一滑走路視距離 (RVR)}$</p>	
<p>7.1 <u>卓越視程</u>若しくは方向視程が 1500m 以下、又は着陸に使用できる 1 つ以上の滑走路の 10 分間平均の滑走路視距離のいずれかが <u>1800m 以下</u> の場合は、規則 7 に定める 1 つ以上の群を使用する。指示文字 R の次にスペースを置かずに D_RD_R を付し、続けて RVR を報ずる。</p>	<p>7.1 <u>視程</u>若しくは方向視程が 1500m 以下、又は着陸に使用できる 1 つ以上の滑走路の 10 分間平均の滑走路視距離のいずれかが <u>観測できる上限 (2000m 又は 1800m) 以下</u> の場合は、規則 7 に定める 1 つ以上の群を使用する。指示文字 R の次にスペースを置かずに D_RD_R を付し、続けて RVR を報ずる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化関連 (表現修正) ・機器更新関連
<p>7.2 着陸に使用できる各滑走路の滑走路視距離が得られるときは、これを繰り返して報ずる。</p>	<p>7.2 着陸に使用できる各滑走路の滑走路視距離が得られるときは、これを繰り返して報ずる。</p>	
<p>7.3 滑走路番号 D_RD_R 滑走路視距離を報ずる滑走路番号を D_RD_R に示す。平行滑走路の場合は、平行滑走路の左、中央、右を示す L, C, R を当該 D_RD_R に付加する。これらの文字を D_RD_R に付加する場合は、ICAO が定めた滑走路指定の標準方式による。</p>	<p>7.3 滑走路番号 D_RD_R 滑走路視距離を報ずる滑走路番号を D_RD_R に示す。平行滑走路の場合は、平行滑走路の左、中央、右を示す L, C, R を当該 D_RD_R に付加する。これらの文字を D_RD_R に付加する場合は、ICAO が定めた滑走路指定の標準方式による。</p>	
<p>7.4 観測時前 10 分間の滑走路視距離の平均値と変化傾向 V_RV_RV_Ri</p>	<p>7.4 観測時前 10 分間の滑走路視距離の平均値と変化傾向 V_RV_RV_Ri</p>	
<p>7.4.1 滑走路視距離は、実際に着陸に使用している滑走路の接地帯を代表する値を、最大 4 群まで報ずる。</p>	<p>7.4.1 滑走路視距離は、実際に着陸に使用している滑走路の接地帯を代表する値を、最大 4 群まで報ずる。</p>	
<p>7.4.2 観測時前 10 分間の滑走路視距離の平均値を V_RV_RV_R に報ずる。 注： (1) 観測値が通報値の間にある場合は、低い方の値を報ずる。 (2) 削除 (3) 滑走路視距離の重要な変動 RD_R/V_RV_RV_RVV_RV_RV_Ri 我が国においては、ある滑走路の RVR が著しく変動し、観測時前 10 分間に 1 分間平均の極値が 10 分間平均値から 50m 又はその平均値の 20% のいずれか大きい方の値以上変動するときは、10 分間平均値の代わりに 1 分間平均の最小値と最大値をこの順に RD_R/V_RV_RV_RVV_RV_RV_Ri に報ずる。RVR の測定範囲外値は規則 7.5.1 により、また変化傾向は規則 7.4.3 により示す。</p>	<p>7.4.2 観測時前 10 分間の滑走路視距離の平均値を V_RV_RV_R に報ずる。 注： (1) 観測値が通報値の間にある場合は、低い方の値を報ずる。 (2) 削除 (3) 滑走路視距離の重要な変動 RD_R/V_RV_RV_RVV_RV_RV_Ri 我が国においては、ある滑走路の RVR が著しく変動し、観測時前 10 分間に 1 分間平均の極値が 10 分間平均値から 50m 又はその平均値の 20% のいずれか大きい方の値以上変動するときは、10 分間平均値の代わりに 1 分間平均の最小値と最大値をこの順に RD_R/V_RV_RV_RVV_RV_RV_Ri に報ずる。RVR の測定範囲外値は規則 7.5.1 により、また変化傾向は規則 7.4.3 により示す。</p>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>7.4.3 観測時前 10 分間の滑走路視距離の値が前半の 5 分間平均と後半の 5 分間平均で 100m 以上変化するような著しい上昇又は下降傾向にあるときは、上昇の場合 i=U, 下降の場合 i=D, 著しい変化がない場合 i=N を用いる。また変化傾向を決定できない場合は、i は省略する。</p>	<p>7.4.3 観測時前 10 分間の滑走路視距離の値が前半の 5 分間平均と後半の 5 分間平均で 100m 以上変化するような著しい上昇又は下降傾向にあるときは、上昇の場合 i=U, 下降の場合 i=D, 著しい変化がない場合 i=N を用いる。また変化傾向を決定できない場合は、i は省略する。</p>	
<p>7.4.4 滑走路視距離を観測すべき条件下でその観測値が得られない場合には、RD_RD_R/V_RV_RV_RV_R として RD_RD_R//// を報ずる。<u>滑走路視距離観測装置の整備されていない官署、及び機器の故障・更新等のため滑走路視距離を観測できない旨をノータムで告知している場合には、これを報じない。</u></p>	<p>7.4.4 滑走路視距離を観測すべき条件下でその観測値が得られない場合には、RD_RD_R/V_RV_RV_RV_R として RD_RD_R//// を報ずる。</p>	<p>・運用変更</p>
<p>7.5 滑走路視距離の測定範囲外値</p>	<p>7.5 滑走路視距離の測定範囲外値</p>	
<p>7.5.1 RVR の値が、現用測器の測定範囲を超えた場合は、次の方法による。 (a) RVR の値が、現用測器の測定範囲の上限値を超えている場合、V_RV_RV_RV_R 群の前に指示符 P を前置し、PV_RV_RV_RV_R の型式で報じ、V_RV_RV_RV_R はその上限値とする。例えば RVR が <u>1800m</u> を超えていることを示す場合は、<u>P1800</u> と報ずる。 (b) RVR の値が現用測器の測定範囲における下限値未満の場合、V_RV_RV_RV_R 群の前に指示符 M を前置し、MV_RV_RV_RV_R の型式で報じ、V_RV_RV_RV_R はその下限値とする。例えば RVR の値が 50m 未満を示す場合は、M0050 と報ずる。</p>	<p>7.5.1 RVR の値が、現用測器の測定範囲を超えた場合は、次の方法による。 (a) RVR の値が、現用測器の測定範囲の上限値を超えている場合、V_RV_RV_RV_R 群の前に指示符 P を前置し、PV_RV_RV_RV_R の型式で報じ、V_RV_RV_RV_R はその上限値とする。例えば RVR が <u>上限値 2000m</u> を超えていることを示す場合は、<u>P2000</u> と報ずる。 (b) RVR の値が現用測器の測定範囲における下限値未満の場合、V_RV_RV_RV_R 群の前に指示符 M を前置し、MV_RV_RV_RV_R の型式で報じ、V_RV_RV_RV_R はその下限値とする。例えば RVR の値が 50m 未満を示す場合は、M0050 と報ずる。</p>	<p>・機器更新関連</p>
<p>7.5.2 滑走路視距離は次の通報区分によって報ずる。 <u>(a) 800m までは 50m 間隔。</u> <u>(b) 800m を越える場合は、100m 間隔。</u></p>	<p>7.5.2 滑走路視距離は次の通報区分によって報ずる。 <u>(a) 400m までは、25m 間隔。</u> <u>(b) 400m から 800m までは 50m 間隔。</u> <u>(c) 800m を超える場合は、100m 間隔。</u> <u>ただし、観測できる滑走路視距離の上限が 1800m の場合、次の通報区分によって報ずる。</u> <u>(a) 800m までは 50m 間隔。</u> <u>(b) 800m を超える場合は、100m 間隔。</u></p>	<p>・機器更新関連</p>
<p>8 w'w' 群—現在天気 (略語) w'w' 群は、飛行場又はその周辺の天気現象で、運航上重要な現在天気現象を <u>天気略語表</u> を用いて報ずる。現在天気は最大 3 群まで、必要に応じて特性、強度又は飛行場周辺を表す指示符と共に繰り返す事ができる。</p>	<p>8 w'w' 群—現在天気 (略語)</p>	
	<p><u>8.1</u> w'w' 群は、飛行場又はその周辺の天気現象で、運航上重要な現在天気現象を <u>天気略語表 1</u> を用いて報ずる。<u>ただし、識別語 AUTO が付加されている場合、w'w' は観測装置で得られた天気現象を天気略語表 2 を用いて報ずる。</u>現在天気は最大 3 群まで、必要に応じて特性、強度又は飛行場周辺を表す指示符と共に繰り返す事ができる。</p>	<p>・自動化関連</p>
	<p><u>8.2</u> <u>現在天気が欠測の場合は//を報ずる。</u></p>	<p>・自動化を契機に欠測表現を規定</p>

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)					改正後 (改正第 16 号)					備考
天 気 略 語 表					天 気 略 語 表 1					・自動化関連 (表現修正)
付帯条件 (Qualifier)		天 気 現 象			付帯条件 (Qualifier)		天 気 現 象			
強度・周辺現象	特 性	降 水 現 象	視程障害現象	その他の現象	強度・周辺現象	特 性	降 水 現 象	視程障害現象	その他の現象	
— (弱)	MI (地 (霧))	DZ (霧雨)	BR (もや [1000m 以上 5000m 以下])	PO (じん旋風)	— (弱)	MI (地 (霧))	DZ (霧雨)	BR (もや [1000m 以上 5000m 以下])	PO (じん旋風)	
(表示なし) (並)	BC (散在 (霧))	RA (雨)	FG (霧 [1000m 未満])	SQ (スコール)	(表示なし) (並)	BC (散在 (霧))	RA (雨)	FG (霧 [1000m 未満])	SQ (スコール)	
+ (強)	PR (部分 (霧))	SN (雪)	FU (煙 [5000m 以下])	FC (ろうと雲 (陸上 の竜巻又は水上の 竜巻))	+ (強)	PR (部分 (霧))	SN (雪)	FU (煙 [5000m 以下])	FC (ろうと雲 (陸上 の竜巻又は水上の 竜巻))	
VC (飛行場標点 から概ね 8 km 及 び 16km の間の区 域の現象)	DR (低い……) [地上 2m 未満]	SG (霧雪)	VA (火山灰)	SS (砂じん嵐)	VC (飛行場標点 から概ね 8 km 及 び 16km の間の区 域の現象)	DR (低い……) [地上 2m 未満]	SG (霧雪)	VA (火山灰)	SS (砂じん嵐)	
	BL (高い……) [地上 2m 以上]	PL (凍雨)	DU (じん [5000m 以下])	DS (砂じん嵐)		BL (高い……) [地上 2m 以上]	PL (凍雨)	DU (じん [5000m 以下])	DS (砂じん嵐)	
	SH (しゅう雨性)	GR (ひょう)	SA (砂 [5000m 以下])			SH (しゅう雨性)	GR (ひょう)	SA (砂 [5000m 以下])		
	TS (雷電)	GS (氷あられ /雪あられ)	HZ (煙霧 [5000m 以下])			TS (雷電)	GS (氷あられ /雪あられ)	HZ (煙霧 [5000m 以下])		
	FZ (着氷性)					FZ (着氷性)				
現在天気は、強度、特性、天気現象により、上記表に該当する略語で組み立てられる。					現在天気は、強度、特性、天気現象により、上記表に該当する略語で組み立てられる。					
注：					注：					
(1) 現在天気は、飛行場又はその周辺の運航上重要な天気現象について、必要に応じて強度、特性を付して略語を用いて表す。また、天気現象は、運航上重要と考えられる現象を優先して最大 3 群まで用いて表すことができる。なお、天気現象が <u>天気略語表</u> のいずれにも該当しない場合には、省略する。					(1) 現在天気は、飛行場又はその周辺の運航上重要な天気現象について、必要に応じて強度、特性を付して略語を用いて表す。また、天気現象は、運航上重要と考えられる現象を優先して最大 3 群まで用いて表すことができる。なお、天気現象が <u>天気略語表 1</u> のいずれにも該当しない場合には、省略する。					・自動化関連 (表現修正)
(2) FU, SA, HZ, BLSA, BLDU は、視程 5000m 以下の場合に用いる。 BR は、視程 1000m 以上 5000m 以下の場合に用いる。 FG は、MI, BC, PR, VC の場合を除き、視程 1000m 未満の場合に用いる。					(2) FU, SA, HZ, BLSA, BLDU は、視程 5000m 以下の場合に用いる。 BR は、視程 1000m 以上 5000m 以下の場合に用いる。 FG は、MI, BC, PR, VC の場合を除き、視程 1000m 未満の場合に用いる。					
(3) 降水現象が 2 種類以上ある場合は、卓越する現象順に同一群にまとめることができる。ただし、同一群にまとめる種類は最大 3 つまでとする。(例：+SHSNRAGS=しゅう雨性のみぞれ、雪あられを観測し、その中で各現象の強度は雪、雨、雪あられの順に強く、現象全体の強度は「強」である。)					(3) 降水現象が 2 種類以上ある場合は、卓越する現象順に同一群にまとめることができる。ただし、同一群にまとめる種類は最大 3 つまでとする。(例：+SHSNRAGS=しゅう雨性のみぞれ、雪あられを観測し、その中で各現象の <u>見かけの割合はみぞれ、雪あられの順に卓越しており、現象全体の強度は、最も強い現象の強度を用いて「強」</u> である。)					・表現の見直し
(4) 降水現象とそれ以外の現象を同時に観測した場合は、別々の天気現象として表す。 (例：-DZ FG)					(4) 降水現象とそれ以外の現象を同時に観測した場合は、別々の天気現象として表す。 (例：-DZ FG)					

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
(5) 現象の強度は、観測時のものであり、降水 (SH, TS を特性とする降水を含む)、 <u>BLDU, BLSA, BLSN, DS, SS</u> の各現象に対して用いる。 PO, BLDU, BLSA, <u>BLSN</u> については、強度を付けない。	(5) 現象の強度は、観測時のものであり、降水 (SH, TS を特性とする降水を含む)、 <u>DS, SS</u> の各現象に対して用いる。 PO, BLDU, BLSA, <u>BLSN 等</u> については、強度を付けない。	・誤記修正
(6) 特性は、1つの群に1つだけ用いる。	(6) 特性は、1つの群に1つだけ用いる。	
(7) 特性の MI, BC, PR は、FG とのみ組み合わせて用いる。	(7) 特性の MI, BC, PR は、FG とのみ組み合わせて用いる。	
(8) DR は、DU, SA, SN が風によって 2m 未満の高さに吹き上げられている場合に用いる。BL は、DU, SA, SN が風によって 2m 以上の高さに吹き上げられている場合に用いる。DR 及び BL は、DU, SA, SN と組み合わせて用いる。	(8) DR は、DU, SA, SN が風によって 2m 未満の高さに吹き上げられている場合に用いる。BL は、DU, SA, SN が風によって 2m 以上の高さに吹き上げられている場合に用いる。DR 及び BL は、DU, SA, SN と組み合わせて用いる。	
(9) BLSN と同時に SN を観測した場合は、両方の現象を別の群として用いる。(例 : SN BLSN) ただし、SN を判別できない場合は、BLSN のみとする。	(9) BLSN と同時に SN を観測した場合は、両方の現象を別の群として用いる。(例 : SN BLSN) ただし、SN を判別できない場合は、BLSN のみとする。	
(10) SH は、観測時にしゅう雨性降水があったとき、RA, SN, GS, GR の内、1つ又は2つ以上と組み合わせて用いる。(例 : SHSN)	(10) SH は、観測時にしゅう雨性降水があったとき、RA, SN, GS, GR の内、1つ又は2つ以上と組み合わせて用いる。(例 : SHSN)	
(11) TS は、飛行場に雷電があり、かつ降水がある場合に、RA, SN, GS, GR の内、1つ又は2つ以上と組み合わせて用いる。(例 : TSSNGS) 降水現象を伴わないときは、TS のみとする。	(11) TS は、飛行場に雷電があり、かつ降水がある場合に、RA, SN, GS, GR の内、1つ又は2つ以上と組み合わせて用いる。(例 : TSSNGS) 降水現象を伴わないときは、TS のみとする。	
(12) FZ は、FG, DZ, RA と組み合わせて用いる。(例 : FZRA)	(12) FZ は、FG, DZ, RA と組み合わせて用いる。(例 : FZRA)	
(13) VC は、飛行場にはないが飛行場周辺 (飛行場の標点から概ね 8km 及び 16km の間の区域) に FG, VA, FC, SH, PO, DS, SS, BLDU, BLSA, BLSN が観測された場合に組み合わせて用いる。 なお、ろうと雲 (竜巻) については、飛行場周辺以遠の場合も VCFC とする。 飛行場周辺の降水の場合は、その降水の種類 (雨か雪) やしゅう雨性か否かに関係なく VCSH とする。	(13) VC は、飛行場にはないが飛行場周辺 (飛行場の標点から概ね 8km 及び 16km の間の区域) に FG, VA, FC, SH, PO, DS, SS, BLDU, BLSA, BLSN が観測された場合に組み合わせて用いる。 なお、ろうと雲 (竜巻) については、飛行場周辺以遠の場合も VCFC とする。 飛行場周辺の降水の場合は、その降水の種類 (雨か雪) やしゅう雨性か否かに関係なく VCSH とする。	
(14) SA, DU に係わる現象については、「風じん」、DS, SS に関わる現象については、「砂じん嵐」とする。(例 : 低い風じん=DRSA, DRDU, 高い風じん=BLSA, BLDU, 砂じん嵐=DS, SS)	(14) SA, DU に係わる現象については、「風じん」、DS, SS に関わる現象については、「砂じん嵐」とする。(例 : 低い風じん=DRSA, DRDU, 高い風じん=BLSA, BLDU, 砂じん嵐=DS, SS)	
(15) 「ちり煙霧」、「黄砂」及び「降灰」がある場合は、それぞれ「煙霧 (HZ)」、「砂 (SA)」及び「火山灰 (VA)」として扱う。	(15) 「ちり煙霧」、「黄砂」及び「降灰」がある場合は、それぞれ「煙霧 (HZ)」、「砂 (SA)」及び「火山灰 (VA)」として扱う。	
(16) 「陸上の竜巻」及び「水上の竜巻」については、FC に強度符号を付加し+FC として通報する。	(16) 「陸上の竜巻」及び「水上の竜巻」については、FC に強度符号を付加し+FC として通報する。	
<u>(新規)</u>	<u>(17) SQ は、スコール、すなわち風速が1分間の間に 8m/s (16 ノット) 以上増し、風速 11m/s (22 ノット) 以上の状態が最低1分間継続した状態を報ずる場合に用いる。</u>	・自動化を契機に定量的に定義

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考																																																		
<p><u>(新規)</u></p>	<p style="text-align: center;"><u>天 気 略 語 表 2</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;"><u>付帯条件 (Qualifier)</u></th> <th colspan="3" style="text-align: center;"><u>天 気 現 象</u></th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;"><u>強度・周辺現象</u></th> <th style="text-align: center;"><u>特 性</u></th> <th style="text-align: center;"><u>降 水 現 象</u></th> <th style="text-align: center;"><u>視程障害現象</u></th> <th style="text-align: center;"><u>その他の現象</u></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;"><u>-</u> <u>(弱)</u></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>DZ</u>** <u>(霧雨)</u></td> <td style="text-align: center;"><u>BR</u> <u>(もや)</u> <u>[1000m 以上</u> <u>5000m 以下]</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>(表示なし)</u> <u>(並)</u></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>RA</u> <u>(雨)</u></td> <td style="text-align: center;"><u>FG</u> <u>(霧)</u> <u>[1000m 未満]</u></td> <td style="text-align: center;"><u>SQ</u> <u>(スコール)</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>+</u> <u>(強)</u></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>SN</u> <u>(雪)</u></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>SG</u>** <u>(霧雪)</u></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>PL</u>** <u>(凍雨)</u></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>GR</u>** <u>(ひょう)</u></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>TS</u> <u>(雷電)</u></td> <td style="text-align: center;"><u>GS</u>** <u>(氷あられ</u> <u>/雪あられ)</u></td> <td style="text-align: center;"><u>HZ</u> <u>(煙霧)</u> <u>[5000m 以下]</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>FZ</u>** <u>(着氷性)</u></td> <td style="text-align: center;"><u>UP</u> <u>(不明な降水)</u></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>現在天気は、強度、特性、天気現象により、上記表に該当する略語で組み立てられる。 ※は当面使用しない略語を示す。</p>	<u>付帯条件 (Qualifier)</u>		<u>天 気 現 象</u>			<u>強度・周辺現象</u>	<u>特 性</u>	<u>降 水 現 象</u>	<u>視程障害現象</u>	<u>その他の現象</u>	<u>-</u> <u>(弱)</u>		<u>DZ</u> ** <u>(霧雨)</u>	<u>BR</u> <u>(もや)</u> <u>[1000m 以上</u> <u>5000m 以下]</u>		<u>(表示なし)</u> <u>(並)</u>		<u>RA</u> <u>(雨)</u>	<u>FG</u> <u>(霧)</u> <u>[1000m 未満]</u>	<u>SQ</u> <u>(スコール)</u>	<u>+</u> <u>(強)</u>		<u>SN</u> <u>(雪)</u>					<u>SG</u> ** <u>(霧雪)</u>					<u>PL</u> ** <u>(凍雨)</u>					<u>GR</u> ** <u>(ひょう)</u>					<u>TS</u> <u>(雷電)</u>	<u>GS</u> ** <u>(氷あられ</u> <u>/雪あられ)</u>	<u>HZ</u> <u>(煙霧)</u> <u>[5000m 以下]</u>			<u>FZ</u> ** <u>(着氷性)</u>	<u>UP</u> <u>(不明な降水)</u>		<p>・自動化関連</p>
<u>付帯条件 (Qualifier)</u>		<u>天 気 現 象</u>																																																		
<u>強度・周辺現象</u>	<u>特 性</u>	<u>降 水 現 象</u>	<u>視程障害現象</u>	<u>その他の現象</u>																																																
<u>-</u> <u>(弱)</u>		<u>DZ</u> ** <u>(霧雨)</u>	<u>BR</u> <u>(もや)</u> <u>[1000m 以上</u> <u>5000m 以下]</u>																																																	
<u>(表示なし)</u> <u>(並)</u>		<u>RA</u> <u>(雨)</u>	<u>FG</u> <u>(霧)</u> <u>[1000m 未満]</u>	<u>SQ</u> <u>(スコール)</u>																																																
<u>+</u> <u>(強)</u>		<u>SN</u> <u>(雪)</u>																																																		
		<u>SG</u> ** <u>(霧雪)</u>																																																		
		<u>PL</u> ** <u>(凍雨)</u>																																																		
		<u>GR</u> ** <u>(ひょう)</u>																																																		
		<u>TS</u> <u>(雷電)</u>	<u>GS</u> ** <u>(氷あられ</u> <u>/雪あられ)</u>	<u>HZ</u> <u>(煙霧)</u> <u>[5000m 以下]</u>																																																
		<u>FZ</u> ** <u>(着氷性)</u>	<u>UP</u> <u>(不明な降水)</u>																																																	
<p><u>(新規)</u></p>	<p><u>注：</u></p>																																																			
	<p><u>(1) 現在天気は、飛行場又はその周辺の運航上重要な天気現象について、必要に応じて強度、特性を付して略語を用いて表す。また、天気現象は、運航上重要と考えられる現象を優先して最大 3 群まで用いて表すことができる。なお、天気現象が天気略語表 2 のいずれにも該当しない場合には、省略する。</u></p>																																																			
	<p><u>(2) HZ は、視程 5000m 以下の場合に用いる。</u> <u>BR は、視程 1000m 以上 5000m 以下の場合に用いる。</u> <u>FG は、視程 1000m 未満の場合に用いる。</u></p>																																																			
	<p><u>(3) 降水現象が 2 種類以上ある場合は、卓越する現象順に同一群にまとめることができる。ただし、同一群にまとめる種類は最大 3 つまでとする。(例：+SNRA=みぞれを観測し、見かけの割合は雪、雨の順に卓越しており、現象全体の強度は、最も強い現象の強度を用いて「強」である。)</u></p>																																																			
	<p><u>(4) 降水現象とそれ以外の現象を同時に観測した場合は、別々の天気現象として表す。</u> <u>(例：-DZ FG)</u></p>																																																			

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
	<u>(5) 現象の強度は、観測時のものであり、降水 (TS を特性とする降水を含む) 現象に対して用いる。</u>	
	<u>(6) 特性は、1つの群に1つだけ用いる。</u>	
	<u>(7) TS は、飛行場に雷電があり、かつ降水がある場合に、RA, SN, GS, GR の内、1つ又は2つ以上と組み合わせて用いる。(例：TSSNRA) 降水現象を伴わないときは、TS のみとする。</u>	
	<u>(8) FZ は、FG, DZ, RA と組み合わせて用いる。(例：FZRA)</u>	
	(削除)	
	(削除)	
	<u>(9) 「ちり煙霧」がある場合は、「煙霧 (HZ)」として扱う。</u>	
	(削除)	
	<u>(10) UP (unidentified precipitation) は、降水の種類が識別できない場合に用いる。必要に応じて、特性 (FZ, TS) と組み合わせる。</u>	
	<u>(11) 当面、特性の FZ 及び降水現象の DZ, SG, PL, GR, GS は報じない。</u>	
	<u>(12) SQ は、スコール、すなわち風速が1分間の間に 8m/s (16 ノット) 以上増し、風速 11m/s (22 ノット) 以上の状態が最低1分間継続した状態を報ずる場合に用いる。</u>	
<p>9 $N_s N_s N_s h_s h_s h_s$ 又は $VV h_s h_s h_s$ 又は NSC</p> <p>群一雲又は鉛直視程</p>	<p>9 $N_s N_s h_s h_s h_s$ 又は $VV h_s h_s h_s$ 又は NSC <u>又は NCD</u></p> <p>群一雲又は鉛直視程</p>	<p>・自動化関連</p>
<p>9.1 雲量及び雲底の高さ $N_s N_s h_s h_s h_s$</p>	<p>9.1 雲量及び雲底の高さ $N_s N_s h_s h_s h_s$</p>	
<p>9.1.1 雲量 1～2 オクタスを FEW (few : 少しの), 3～4 オクタスを SCT (scattered : 散在している), 5～7 オクタスを BKN (broken : 隙間あり), 8 オクタスを OVC (overcast : 全天を覆う) として $N_s N_s N_s$ に報じ、続けてスペースを置かずに雲層 (雲塊) の底の高さを $h_s h_s h_s$ に報ずる。 1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、重要な対流雲がなく、鉛直視程も良好で、かつ略号 CAVOK が適当でない場合は、略号 NSC (nil significant cloud) を用いる。重要な対流雲の定義は、規則 9.1.3 の注を適用する。</p>	<p>9.1.1 雲量 1～2 オクタスを FEW (few : 少しの), 3～4 オクタスを SCT (scattered : 散在している), 5～7 オクタスを BKN (broken : 隙間あり), 8 オクタスを OVC (overcast : 全天を覆う) として $N_s N_s N_s$ に報じ、続けてスペースを置かずに雲層 (雲塊) の底の高さを $h_s h_s h_s$ に報ずる。 1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、重要な対流雲がなく、鉛直視程も良好で、かつ略号 CAVOK が適当でない場合、<u>又は識別語 AUTO が付加されている場合で、1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲が検知されず、重要な対流雲がない場合は、略号 NSC (nil significant cloud) を用いる。識別語 AUTO が付加されている場合で、雲が検知されない場合は、略語 NCD (no cloud detected) を用いる。</u> 重要な対流雲の定義は、規則 9.1.3 の注を適用する。</p>	<p>・自動化関連 ・自動化関連</p>
<p>9.1.2 個々の雲層 (雲塊) の量を決定する場合は、その雲層以外には雲は存在しないものとみなして推定する。</p>	<p>9.1.2 個々の雲層 (雲塊) の量を決定する場合は、その雲層以外には雲は存在しないものとみなして推定する。</p>	
<p>9.1.3 雲の群はいくつもの雲層又は雲塊が存在する場合は繰り返して報ずる。この群は3群を超えてはならない。ただし重要な対流雲を観測した場合には必ず通報するものとし、この場合は4群報ずることができる。 注：次の雲を重要な対流雲として報ずる。 (a) 積乱雲 (CB)。 (b) 塔状積雲 (TCU)。TCU は “towering cumulus” からとったもので、航空気象で使われている ICAO の略語である。</p>	<p>9.1.3 雲の群はいくつもの雲層又は雲塊が存在する場合は繰り返して報ずる。この群は3群を超えてはならない。ただし重要な対流雲を観測した場合には必ず通報するものとし、この場合は4群報ずることができる。 注：次の雲を重要な対流雲として報ずる。 (a) 積乱雲 (CB)。 (b) 塔状積雲 (TCU)。TCU は “towering cumulus” からとったもので、航空気象で使われている ICAO の略語である。</p>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)				改正後 (改正第 16 号)				備考			
9.1.4 雲層又は雲塊は次の基準によって報ずる。 第1群: 雲量に関係なく最も低い雲層 (雲塊) を, FEW, SCT, BKN, OVC のいずれかで報ずる。 第2群: 雲量が3オクタス以上の第1群より上の雲層 (雲塊) は, SCT, BKN, OVC のいずれかで報ずる。 第3群: 雲量が5オクタス以上の第2群よりさらに上の雲層 (雲塊) は, BKN 又は OVC で報ずる。 付加群: 重要な対流雲 (CB 又は TCU) が観測され, 上記のいずれの群でも報じられていない場合は, 重要な対流雲を1つだけ改めて報ずる。 雲の群は, 高度の低い雲から高い雲の順に報ずる。				9.1.4 雲層又は雲塊は次の基準によって報ずる。 第1群: 雲量に関係なく最も低い雲層 (雲塊) を, FEW, SCT, BKN, OVC のいずれかで報ずる。 第2群: 雲量が3オクタス以上の第1群より上の雲層 (雲塊) は, SCT, BKN, OVC のいずれかで報ずる。 第3群: 雲量が5オクタス以上の第2群よりさらに上の雲層 (雲塊) は, BKN 又は OVC で報ずる。 付加群: 重要な対流雲 (CB 又は TCU) が観測され, 上記のいずれの群でも報じられていない場合は, 重要な対流雲を1つだけ改めて報ずる。 雲の群は, 高度の低い雲から高い雲の順に報ずる。							
9.1.5 雲層 (又は雲塊) の底の高さは第1表により報ずる。				9.1.5 雲層 (又は雲塊) の底の高さは第1表により報ずる。							
9.1.6 雲底高度が不明又は観測できない場合は, N _s N _s ///と報ずる。又, 雲量が不明の場合は, ///h _s h _s と報ずる。				9.1.6 雲底の高さが不明又は観測できない場合は, N _s N _s ///と報ずる。又, 雲量が不明の場合は, ///h _s h _s と報ずる。 雲底の高さ及び雲量が不明の場合, 又は欠測の場合は, /////を報ずる。				・表現の見直し ・自動化関連及び自動化を契機に欠測表現を規定			
第 1 表				第 1 表							
数字符号	雲底の高さ		数字符号	雲底の高さ		数字符号	雲底の高さ				
	m	ft		m	ft		m	ft			
000	<30	<100	050	1500	5000	000	<30	<100	050	1500	5000
001	30	100	060	1800	6000	001	30	100	060	1800	6000
002	60	200	070	2100	7000	002	60	200	070	2100	7000
003	90	300	080	2400	8000	003	90	300	080	2400	8000
004	120	400	090	2700	9000	004	120	400	090	2700	9000
005	150	500	100	3000	10000	005	150	500	100	3000	10000
006	180	600	110	3300	11000	006	180	600	110	3300	11000
007	210	700	120	3600	12000	007	210	700	120	3600	12000
008	240	800	130	3900	13000	008	240	800	130	3900	13000
009	270	900	140	4200	14000	009	270	900	140	4200	14000
010	300	1000	150	4500	15000	010	300	1000	150	4500	15000
011	330	1100	160	4800	16000	011	330	1100	160	4800	16000
012	360	1200	170	5100	17000	012	360	1200	170	5100	17000
013	390	1300	180	5400	18000	013	390	1300	180	5400	18000
014	420	1400	190	5700	19000	014	420	1400	190	5700	19000
015	450	1500	200	6000	20000	015	450	1500	200	6000	20000
016	480	1600	210	6300	21000	016	480	1600	210	6300	21000
017	510	1700	220	6600	22000	017	510	1700	220	6600	22000
018	540	1800	230	6900	23000	018	540	1800	230	6900	23000
019	570	1900	240	7200	24000	019	570	1900	240	7200	24000
020	600	2000	250	7500	25000	020	600	2000	250	7500	25000
021	630	2100	260	7800	26000	021	630	2100	260	7800	26000
022	660	2200	270	8100	27000	022	660	2200	270	8100	27000
023	690	2300	280	8400	28000	023	690	2300	280	8400	28000
024	720	2400	290	8700	29000	024	720	2400	290	8700	29000
025	750	2500	300	9000	30000	025	750	2500	300	9000	30000
026	780	2600				026	780	2600			
027	810	2700	350	10500	35000	027	810	2700	350	10500	35000
028	840	2800	400	12000	40000	028	840	2800	400	12000	40000
029	870	2900	450	13500	45000	029	870	2900	450	13500	45000

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)						改正後 (改正第 16 号)						備考
030	900	3000	500	15000	50000	030	900	3000	500	15000	50000	
031	930	3100	550	16500	55000	031	930	3100	550	16500	55000	
032	960	3200	600	18000	60000	032	960	3200	600	18000	60000	
033	990	3300	650	19500	65000	033	990	3300	650	19500	65000	
034	1020	3400	700	21000	70000	034	1020	3400	700	21000	70000	
035	1050	3500	750	22500	75000	035	1050	3500	750	22500	75000	
036	1080	3600	800	24000	80000	036	1080	3600	800	24000	80000	
037	1110	3700	850	25500	85000	037	1110	3700	850	25500	85000	
038	1140	3800	900	27000	90000	038	1140	3800	900	27000	90000	
039	1170	3900	950	28500	95000	039	1170	3900	950	28500	95000	
040	1200	4000	999	≥30000	≥100000	040	1200	4000	999	≥30000	≥100000	
041	1230	4100				041	1230	4100				
042	1260	4200				042	1260	4200				
043	1290	4300	///	雲底の高さが不明		043	1290	4300	///	雲底の高さが不明		
044	1320	4400				044	1320	4400				
045	1350	4500				045	1350	4500				
046	1380	4600				046	1380	4600				
047	1410	4700				047	1410	4700				
048	1440	4800				048	1440	4800				
049	1470	4900				049	1470	4900				
注 : 観測した値が 2 つの数字符号の間にある場合は, 低い方の符号を報ずる。						注 : 観測した値が 2 つの数字符号の間にある場合は, 低い方の符号を報ずる。						
<p>9.1.7</p> <p>重要な対流雲以外は雲形を通報しない。重要な対流雲を観測した場合は, 雲の群に続けてスペースを置かず CB (積乱雲) 又は TCU (塔状積雲) を付加する。</p> <p>注 : 雲層又は雲塊が共通の雲底を持つ CB と TCU からなる場合, 雲量は CB と TCU の合計雲量を報じ, 雲形は CB とする。</p>						<p>9.1.7</p> <p>重要な対流雲以外は雲形を通報しない。重要な対流雲を観測した場合は, 雲の群に続けてスペースを置かず CB (積乱雲) 又は TCU (塔状積雲) を付加する。<u>この場合であって, 識別語 AUTO が付加されている場合は, 雲量と雲底の高さは, それぞれ///を報ずる。</u></p> <p>注 : 雲層又は雲塊が共通の雲底を持つ CB と TCU からなる場合, 雲量は CB と TCU の合計雲量を報じ, 雲形は CB とする。</p>						・自動化関連
<p>9.2</p> <p>鉛直視程 VWh_hh_s</p> <p>天空不明で鉛直視程が入手できる場合は, VWh_hh_s 群を報ずる。鉛直視程 h_hh_s は第 1 表により報ずる。天空不明で鉛直視程の資料が入手できない場合は, この群は $VW///$ と報ずる。</p> <p>注 : (1) 鉛直視程は視程障害現象があるときの鉛直方向の視距離である。 (2) 観測値が通報値の間にある場合は, 低い方の値を報ずる。</p>						<p>9.2</p> <p>鉛直視程 VWh_hh_s</p> <p>天空不明で鉛直視程が入手できる場合は, VWh_hh_s 群を報ずる。鉛直視程 h_hh_s は第 1 表により報ずる。天空不明で鉛直視程の資料が入手できない場合は, この群は $VW///$ と報ずる。<u>ただし, 識別語 AUTO が付加されている場合, VWh_hh_s 群は報じない。</u></p> <p>注 : (1) 鉛直視程は視程障害現象があるときの鉛直方向の視距離である。 (2) 観測値が通報値の間にある場合は, 低い方の値を報ずる。</p>						・自動化関連
<p>9.3</p> <p>CAVOK については規則 10 を適用する。</p>						<p>9.3</p> <p>CAVOK については規則 10 を適用する。<u>ただし, 識別語 AUTO が付加されている場合, 規則 10 は適用しない。</u></p>						・自動化関連

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考																														
<p>10 CAVOK 観測時に次の状態が同時に起きている場合は、規則 6, 7, 8 及び 9 で示す各群の代わりに CAVOK を報ずる。 (a) 視程 : 卓越視程が 10 km 以上かつ最低視程が通報されない状態。 (b) 雲 : 1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、かつ重要な対流雲がない。 (c) 現在天気 : 天気略語表に該当する現象がない。 注 : (1) その他視界内の視程障害現象の扱いについては航空気象観測指針参照。 (2) 最低扇形別高度は、AIP JAPAN に次のように定義されている。 <u>航行用無線施設を中心とした半径 25 海里の円内の部分に含まれる区域に所在する全ての障害物から、平野部については 300m (1000ft)、山岳部については 600m (2000ft) の垂直間隔をもって設定した緊急時用の最低高度。</u></p>	<p>10 CAVOK 観測時に次の状態が同時に起きている場合は、規則 6, 7, 8 及び 9 で示す各群の代わりに CAVOK を報ずる。<u>ただし、識別語 AUTO が付加されている場合は適用しない。</u> (a) 視程 : 卓越視程が 10 km 以上かつ最低視程が通報されない状態。 (b) 雲 : 1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、かつ重要な対流雲がない。 (c) 現在天気 : 天気略語表に該当する現象がない。 注 : (1) その他視界内の視程障害現象の扱いについては航空気象観測指針参照。 (2) 最低扇形別高度は、AIP JAPAN に次のように定義されている。 <u>計器進入方式に使用される航空保安無線施設 (RNAV 進入方式においては飛行場標点) を中心に半径 25 海里の扇形区域内の全ての障害物から、平野部においては 300m (1000ft)、山岳部においては 600m (2000ft) の垂直間隔を以って設定した最低高度。</u></p>	<p>・自動化関連 ・表現の見直し</p>																														
<p>11 TT'/T'dT'd 群—気温/露点温度</p>	<p>11 TT'/T'dT'd 群—気温/露点温度</p>																															
<p>11.1 気温及び露点温度は小数点以下の観測値は 1℃単位に丸めて TT'/T'dT'd に報ずる。</p>	<p>11.1 気温及び露点温度は小数点以下の観測値は 1℃単位に丸めて TT'/T'dT'd に報ずる。</p>																															
<p>11.2 気温及び露点温度が -9℃~+9℃の場合は 0 を前置する。例えば +9℃は 09, +0.5℃は 01 と報ずる。</p>	<p>11.2 気温及び露点温度が -9℃~+9℃の場合は 0 を前置する。例えば +9℃は 09, +0.5℃は 01 と報ずる。</p>																															
<p>11.3 0℃未満の温度は M (マイナス) で示す。例えば -9℃は M09, -0.5℃は M00 と報ずる。</p>	<p>11.3 0℃未満の温度は M (マイナス) で示す。例えば -9℃は M09, -0.5℃は M00 と報ずる。</p>																															
<p>11.4 気温又は露点温度が欠測の場合は、それぞれ数値に代えて//を報ずる。</p>	<p>11.4 気温又は露点温度が欠測の場合は、それぞれ数値に代えて//を報ずる。</p>																															
<p>12 QPpPpPp 群—アルティメーター・セッティング [QNH (hPa)]</p>	<p>12 QPpPpPp 群—アルティメーター・セッティング [QNH (hPa)]</p>																															
<p>12.1 QNH は hPa の 10 分位を切り捨てた値を PpPpPpPp に報ずる。PpPpPpPp の前にスペースを置かず指示文字 Q を前置する。</p>	<p>12.1 QNH は hPa の 10 分位を切り捨てた値を PpPpPpPp に報ずる。PpPpPpPp の前にスペースを置かず指示文字 Q を前置する。</p>																															
<p>12.2 QNH の値が 1000hPa 未満の場合は 0 を前置する。例えば QNH が 995.6hPa の場合、Q0995 と報ずる。</p>	<p>12.2 QNH の値が 1000hPa 未満の場合は 0 を前置する。例えば QNH が 995.6hPa の場合、Q0995 と報ずる。</p>																															
<p>12.3 QNH が欠測の場合は、Q////を報ずる。</p>	<p>12.3 QNH が欠測の場合は、Q////を報ずる。</p>																															
<p>13 <table border="0" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding: 0 5px;">WS</td> <td style="padding: 0 5px;">RD_RD_R</td> <td style="padding: 0 10px;"></td> <td style="padding: 0 5px;">群—補足情報</td> </tr> <tr> <td style="padding: 0 5px;">又は</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding: 0 5px;">WS</td> <td style="padding: 0 5px;">ALL</td> <td style="padding: 0 10px;"></td> <td style="padding: 0 5px;">RWY</td> </tr> </table> </p>	{	WS	RD _R D _R		群—補足情報	又は					}	WS	ALL		RWY	<p>13 <table border="0" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding: 0 5px;">WS</td> <td style="padding: 0 5px;">RD_RD_R</td> <td style="padding: 0 10px;"></td> <td style="padding: 0 5px;">群—補足情報</td> </tr> <tr> <td style="padding: 0 5px;">又は</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding: 0 5px;">WS</td> <td style="padding: 0 5px;">ALL</td> <td style="padding: 0 10px;"></td> <td style="padding: 0 5px;">RWY</td> </tr> </table> </p>	{	WS	RD _R D _R		群—補足情報	又は					}	WS	ALL		RWY	
{	WS	RD _R D _R		群—補足情報																												
又は																																
}	WS	ALL		RWY																												
{	WS	RD _R D _R		群—補足情報																												
又は																																
}	WS	ALL		RWY																												
<p>13.1 この補足情報群は、低層のウィンドシアーに関する情報の通報に用いる。</p>	<p>13.1 この補足情報群は、低層のウィンドシアーに関する情報の通報に用いる。</p>																															
<p>13.2 削除</p>	<p>13.2 削除</p>																															

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
13. 2. 1 削除	13. 2. 1 削除	
<p>13. 3</p> <p>低層のウィンドシアア { WS RD_RD_R 又は WS ALL RWY</p> <p>ある滑走路の滑走路面と上空 500m (1600ft) の間の離陸路又は進入路に沿って運航上重要なウィンドシアアがあるという情報が入手され、かつ局地状況がこれを裏づけるような場合は、観測時刻の前 30 分以内に観測されたものについて、WS RD_RD_R群を最大 5 群まで繰り返してこれを報ずる。</p> <p>その離陸路又は進入路に沿ったウィンドシアアが飛行場の全滑走路に影響する場合は、WS ALL RWY を報ずる。</p> <p>例 : WS R16R WS R16L</p> <p>注 : D_RD_Rは ICAO 第 14 付属書により報ずる使用滑走路番号。</p>	<p>13. 3</p> <p>低層のウィンドシアア { WS RD_RD_R 又は WS ALL RWY</p> <p>ある滑走路の滑走路面と上空 500m (1600ft) の間の離陸路又は進入路に沿って運航上重要なウィンドシアアがあるという情報が入手され、かつ局地状況がこれを裏づけるような場合は、観測時刻の前 30 分以内に観測されたものについて、WS RD_RD_R群を最大 5 群まで繰り返してこれを報ずる。</p> <p>その離陸路又は進入路に沿ったウィンドシアアが飛行場の全滑走路に影響する場合は、WS ALL RWY を報ずる。</p> <p>例 : WS R16R WS R16L</p> <p>注 : D_RD_Rは ICAO 第 14 付属書により報ずる使用滑走路番号。</p>	
2. 着陸用飛行場予報気象通報式 (TREND)	2. 着陸用飛行場予報気象通報式 (TREND)	
(略)	(略)	
<p>1. 2</p> <p>観測したいくつかの要素 (風, 卓越視程, 現在天気, 雲又は鉛直視程) に重要な変化の適用基準に一致するような変化が予想される場合、変化指示符 BECMG 又は TEMPO のいずれか1つを TTTT に報ずる。</p> <p>(略)</p>	<p>1. 2</p> <p>観測したいくつかの要素 (風, 視程, 現在天気, 雲又は鉛直視程) に重要な変化の適用基準に一致するような変化が予想される場合、変化指示符 BECMG 又は TEMPO のいずれか1つを TTTT に報ずる。</p> <p>(略)</p>	<p>・自動化に伴う 1. の 6. 1 の表現修正による</p>
(略)	(略)	
<p>1. 5</p> <p>(e) その変化が 00UTC (24UTC) に起こると予報する場合、その時刻を次のように示す。</p> <p>(i) FM 及び AT に関するときは 0000 とする。</p> <p><u>(ii) TL に関するときは 2400 とする。</u></p> <p>(略)</p>	<p>1. 5</p> <p>(e) その変化が 00UTC (24UTC) に起こると予報する場合、<u>FM, AT 及び TL ともにその時刻を 0000 とする。</u></p> <p>(略)</p>	<p>・ ICAO ANNEX3 77 次改正対応 (※H29. 3. 2 適用)</p>
(略)	(略)	
<p>1. 12</p> <p>重要な予報天気 w' w' は、以下の場合に限り、天気略語表にある適切な略語を用いて報ずる。</p> <p>(略)</p>	<p>1. 12</p> <p>重要な予報天気 w' w' は、以下の場合に限り、天気略語表 1にある適切な略語を用いて報ずる。</p> <p>(略)</p>	<p>・「天気略語表」→「天気略語表 1, 2」への変更による</p>
(略)	(略)	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>1. 15</p> <p>CAVOK</p> <p>次の状態が同時に起こると予想される場合には, VVVV, w'w', 及び N_sN_sN_sh_sh_sh_s 又は VVh_sh_sh_s 群の代わりに CAVOK を報ずる。</p> <p>(a) <u>卓越視程</u> : 10 km 以上。</p> <p>(b) 雲 : 1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく, かつ重要な対流雲がない。</p> <p>(c) 予報天気 : <u>天気略語表</u> に該当する現象がない。</p> <p>注 : (1) その他視界内の視程障害現象の扱いについては航空気象観測指針参照。</p> <p>(2) 最低扇形別高度は, AIP JAPAN に次のように定義されている。</p> <p><u>航行用無線施設を中心とした半径 25 海里の円内の部分に含まれる区域に所在する全ての障害物から, 平野部については 300m (1000ft), 山岳部については 600m (2000ft) の垂直間隔をもって設定した緊急時用の最低高度。</u></p>	<p>1. 15</p> <p>CAVOK</p> <p>次の状態が同時に起こると予想される場合には, VVVV, w'w', 及び N_sN_sN_sh_sh_sh_s 又は VVh_sh_sh_s 群の代わりに CAVOK を報ずる。</p> <p>(a) <u>視程</u> : 10 km 以上。</p> <p>(b) 雲 : 1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく, かつ重要な対流雲がない。</p> <p>(c) 予報天気 : <u>天気略語表 1</u> に該当する現象がない。</p> <p>注 : (1) その他視界内の視程障害現象の扱いについては航空気象観測指針参照。</p> <p>(2) 最低扇形別高度は, AIP JAPAN に次のように定義されている。</p> <p><u>計器進入方式に使用される航空保安無線施設 (RNAV 進入方式においては飛行場標点) を中心に半径 25 海里の扇形区域内の全ての障害物から, 平野部においては 300 m (1000ft)、山岳部においては 600m (2000ft) の垂直間隔を以て設定した最低高度。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化に伴う 1. の 6.1 の表現修正による ・「天気略語表」→「天気略語表 1, 2」への変更による ・表現の見直し
(略)	(略)	
<p>3. 国内記事</p>	<p>3. 国内記事</p>	
<p>通報型式 :</p> <p>RMK N_sCCh_sh_sh_s AP'P'P'P'P' V_DV_DV_DV_D その他の事項</p> <p>注 : 指示符 RMK は国内記事の始まりを示す。</p>	<p>通報型式 :</p> <p>RMK N_sCCh_sh_sh_s AP'P'P'P'P' RIRRR V_DV_DV_DV_D その他の事項</p> <p>注 : 指示符 RMK は国内記事の始まりを示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化関連
<p>規則 :</p>	<p>規則 :</p>	
<p>1</p> <p>N_sCCh_sh_sh_s 群-雲</p>	<p>1</p> <p>N_sCCh_sh_sh_s 群-雲</p>	
<p>1. 1</p> <p>次の条件のとき雲の群を報ずる。</p> <p>i METAR/SPECI の本文の N_sN_sN_sh_sh_sh_s で報じた中層雲, 下層雲について雲量, 雲底の高さ及び雲形を報ずる。</p> <p>ii NSC を報じた場合。 NSC の気象状態で中層雲, 下層雲が存在する場合は, その雲量, 雲底の高さ及び雲形を報ずる。</p> <p>iii CAVOK を報じた場合。 CAVOK の気象状態で 3000m (10000ft) 未満に雲量 5 オクタス以上の雲が存在する場合は, そのうち雲量 5 オクタス以上の最低の雲についてのみ雲量, 雲底の高さ及び雲形を報ずる。</p>	<p>1. 1</p> <p>次の条件のとき雲の群を報ずる。<u>ただし, 1. 定時飛行場実況気象通報式 (METAR) 特別飛行場実況気象通報式 (SPECI) 規則 4 に示す識別語 AUTO が付加 (以下国内記事の規則において「識別語 AUTO が付加」という。) されている場合は, 省略する。</u></p> <p>i METAR/SPECI の本文の N_sN_sN_sh_sh_sh_s で報じた中層雲, 下層雲について雲量, 雲底の高さ及び雲形を報ずる。</p> <p>ii NSC を報じた場合。 NSC の気象状態で中層雲, 下層雲が存在する場合は, その雲量, 雲底の高さ及び雲形を報ずる。</p> <p>iii CAVOK を報じた場合。 CAVOK の気象状態で 3000m (10000ft) 未満に雲量 5 オクタス以上の雲が存在する場合は, そのうち雲量 5 オクタス以上の最低の雲についてのみ雲量, 雲底の高さ及び雲形を報ずる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化関連

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考																																																								
<p>1.2 雲量 N_s 規則 1.1 の条件にあった雲の雲量を、第 2 表により 8 分雲量に応じた符号で報ずる。</p> <p style="text-align: center;">第 2 表</p> <table border="1" data-bbox="320 390 1041 747"> <thead> <tr> <th>N_s</th> <th>8 分雲量</th> <th>略 語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1/8 以下, しかし 0 ではない</td> <td rowspan="2">FEW</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2/8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3/8</td> <td rowspan="2">SCT</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/8</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/8</td> <td rowspan="2">BKN</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6/8</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/8 以上, しかし 8/8 ではない</td> <td rowspan="2">OVC</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8/8</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>不明</td> <td>///</td> </tr> </tbody> </table>	N_s	8 分雲量	略 語	1	1/8 以下, しかし 0 ではない	FEW	2	2/8	3	3/8	SCT	4	4/8	5	5/8	BKN	6	6/8	7	7/8 以上, しかし 8/8 ではない	OVC	8	8/8	/	不明	///	<p>1.2 雲量 N_s 規則 1.1 の条件にあった雲の雲量を、第 2 表により 8 分雲量に応じた符号で報ずる。</p> <p style="text-align: center;">第 2 表</p> <table border="1" data-bbox="1368 390 2089 747"> <thead> <tr> <th>N_s</th> <th>8 分雲量</th> <th>略 語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1/8 以下, しかし 0 ではない</td> <td rowspan="2">FEW</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2/8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3/8</td> <td rowspan="2">SCT</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/8</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/8</td> <td rowspan="2">BKN</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6/8</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7/8 以上, しかし 8/8 ではない</td> <td rowspan="2">OVC</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8/8</td> </tr> <tr> <td>/</td> <td>不明</td> <td>///</td> </tr> </tbody> </table>	N_s	8 分雲量	略 語	1	1/8 以下, しかし 0 ではない	FEW	2	2/8	3	3/8	SCT	4	4/8	5	5/8	BKN	6	6/8	7	7/8 以上, しかし 8/8 ではない	OVC	8	8/8	/	不明	///					
N_s	8 分雲量	略 語																																																								
1	1/8 以下, しかし 0 ではない	FEW																																																								
2	2/8																																																									
3	3/8	SCT																																																								
4	4/8																																																									
5	5/8	BKN																																																								
6	6/8																																																									
7	7/8 以上, しかし 8/8 ではない	OVC																																																								
8	8/8																																																									
/	不明	///																																																								
N_s	8 分雲量	略 語																																																								
1	1/8 以下, しかし 0 ではない	FEW																																																								
2	2/8																																																									
3	3/8	SCT																																																								
4	4/8																																																									
5	5/8	BKN																																																								
6	6/8																																																									
7	7/8 以上, しかし 8/8 ではない	OVC																																																								
8	8/8																																																									
/	不明	///																																																								
<p>1.3 雲形 CC 規則 1.1 の条件にあった雲の雲形を第 3 表により報ずる。第 3 表にない雲形は報じない。また、雲形 (CC) が不明の時は、“//”として報ずる。</p> <p style="text-align: center;">第 3 表</p> <table border="1" data-bbox="308 984 1053 1230"> <thead> <tr> <th>CC</th> <th>雲 形</th> <th>CC</th> <th>雲 形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AC</td> <td>高 積 雲</td> <td>CB</td> <td>積 乱 雲</td> </tr> <tr> <td>AS</td> <td>高 層 雲</td> <td>TCU</td> <td>塔 状 積 雲</td> </tr> <tr> <td>NS</td> <td>乱 層 雲</td> <td>//</td> <td>不 明</td> </tr> <tr> <td>SC</td> <td>層 積 雲</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ST</td> <td>層 雲</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>CU</td> <td>積 雲</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	CC	雲 形	CC	雲 形	AC	高 積 雲	CB	積 乱 雲	AS	高 層 雲	TCU	塔 状 積 雲	NS	乱 層 雲	//	不 明	SC	層 積 雲			ST	層 雲			CU	積 雲			<p>1.3 雲形 CC 規則 1.1 の条件にあった雲の雲形を第 3 表により報ずる。第 3 表にない雲形は報じない。また、雲形 (CC) が不明の時は、“//”として報ずる。</p> <p style="text-align: center;">第 3 表</p> <table border="1" data-bbox="1356 984 2101 1230"> <thead> <tr> <th>CC</th> <th>雲 形</th> <th>CC</th> <th>雲 形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AC</td> <td>高 積 雲</td> <td>CB</td> <td>積 乱 雲</td> </tr> <tr> <td>AS</td> <td>高 層 雲</td> <td>TCU</td> <td>塔 状 積 雲</td> </tr> <tr> <td>NS</td> <td>乱 層 雲</td> <td>//</td> <td>不 明</td> </tr> <tr> <td>SC</td> <td>層 積 雲</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ST</td> <td>層 雲</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>CU</td> <td>積 雲</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	CC	雲 形	CC	雲 形	AC	高 積 雲	CB	積 乱 雲	AS	高 層 雲	TCU	塔 状 積 雲	NS	乱 層 雲	//	不 明	SC	層 積 雲			ST	層 雲			CU	積 雲			
CC	雲 形	CC	雲 形																																																							
AC	高 積 雲	CB	積 乱 雲																																																							
AS	高 層 雲	TCU	塔 状 積 雲																																																							
NS	乱 層 雲	//	不 明																																																							
SC	層 積 雲																																																									
ST	層 雲																																																									
CU	積 雲																																																									
CC	雲 形	CC	雲 形																																																							
AC	高 積 雲	CB	積 乱 雲																																																							
AS	高 層 雲	TCU	塔 状 積 雲																																																							
NS	乱 層 雲	//	不 明																																																							
SC	層 積 雲																																																									
ST	層 雲																																																									
CU	積 雲																																																									
<p>1.4 雲底の高さ h_s, h_b, h_c 規則 1.1 の条件にあった雲の雲底の高さを、METAR/SPECI の第 1 表により報ずる。</p>	<p>1.4 雲底の高さ h_s, h_b, h_c 規則 1.1 の条件にあった雲の雲底の高さを、METAR/SPECI の第 1 表により報ずる。</p>																																																									
<p>2 $AP'_{\mu}P'_{\mu}P'_{\mu}P'_{\mu}$ 群—アルティメーター・セッティング [QNH (inHg)]</p>	<p>2 $AP'_{\mu}P'_{\mu}P'_{\mu}P'_{\mu}$ 群—アルティメーター・セッティング [QNH (inHg)]</p>																																																									
<p>2.1 QNH の値に水銀柱のインチを使用する。この群は指示文字 A を前置し、続けて 10 位、1 位、10 分位及び 100 分位の値を小数点を付けずに報ずる。例えば、QNH29.91 インチは A2991、QNH30.27 インチは A3027 である。QNH が水銀柱のインチで報じられるときは、指示文字 A のすぐ後の数字は 2 か 3 である。</p>	<p>2.1 QNH の値に水銀柱のインチを使用する。この群は指示文字 A を前置し、続けて 10 位、1 位、10 分位及び 100 分位の値を小数点を付けずに報ずる。例えば、QNH29.91 インチは A2991、QNH30.27 インチは A3027 である。QNH が水銀柱のインチで報じられるときは、指示文字 A のすぐ後の数字は 2 か 3 である。</p>																																																									
<p>2.2 QNH が欠測の場合には、A///を報ずる。</p>	<p>2.2 QNH が欠測の場合には、A///を報ずる。</p>	<p>・表現の見直し</p>																																																								
<p style="text-align: center;"><u>(新規)</u></p>	<p><u>3</u> <u>RIRRR 群—降雨強度</u></p>	<p>・自動化関連</p>																																																								

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<u>(新規)</u>	<u>3.1</u> <u>識別語 AUTO が付加されている場合で、降雨強度が 3.0mm/h 以上の場合に報ずる。この群は指示文字 RI を前置し、続けて降雨強度 mm/h の 10 分位を切り捨てた 100 位、10 位、1 位の値を RRR に報ずる。例えば、降雨強度 14.5mm/h は RI014 である。</u>	・自動化関連
<u>(新規)</u>	<u>3.2</u> <u>降雨強度が欠測の場合は RI/// を報ずる。</u>	・自動化関連
<u>3</u> V _D V _D V _D V _D D _V 群-方向視程	<u>4</u> V _D V _D V _D V _D D _V 群-方向視程	
<u>3.1</u> METAR/SPECI 本文の規則 6.1 によって報じた卓越視程が 5000m 以下で他の方向の視程が卓越視程の 2 倍以上又は 1/2 以下のとき、または卓越視程が 5000m を超え他の方向の視程が卓越視程の 1/2 以下かつ 5000m 以下であるとき、この視程の値を V _D V _D V _D V _D に報じ、スペースを置かずに続けて D _V を報ずる。その方向は 8 方位 (N, NE 等 1~2 文字) で表す。	<u>4.1</u> METAR/SPECI 本文の規則 6.1 によって報じた卓越視程が 5000m 以下で他の方向の視程が卓越視程の 2 倍以上又は 1/2 以下のとき、または卓越視程が 5000m を超え他の方向の視程が卓越視程の 1/2 以下かつ 5000m 以下であるとき、この視程の値を V _D V _D V _D V _D に報じ、スペースを置かずに続けて D _V を報ずる。その方向は 8 方位 (N, NE 等 1~2 文字) で表す。	
<u>3.2</u> 卓越視程が 5000m 以下で、卓越視程の 2 倍以上及び 1/2 以下の視程がともに観測された場合には、方向視程として卓越視程の 1/2 以下の値のみを報ずる。	<u>4.2</u> 卓越視程が 5000m 以下で、卓越視程の 2 倍以上及び 1/2 以下の視程がともに観測された場合には、方向視程として卓越視程の 1/2 以下の値のみを報ずる。	
<u>3.3</u> 方向視程が 2 方向にわたる場合には、その方向を時計回りの順に並べ、“-” でつないで示す (例 : N-NE)。同じ値の方向視程が 2 つ以上の別々の方向で観測された場合には、航空機の運航上もっとも重要と考えられる方向を D _V に報ずる。	<u>4.3</u> 方向視程が 2 方向にわたる場合には、その方向を時計回りの順に並べ、“-” でつないで示す (例 : N-NE)。同じ値の方向視程が 2 つ以上の別々の方向で観測された場合には、航空機の運航上もっとも重要と考えられる方向を D _V に報ずる。	
<u>(新規)</u>	<u>4.4</u> <u>識別語 AUTO が付加されている場合は報じない。</u>	・自動化関連
<u>4</u> その他の事項	<u>5</u> その他の事項	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p><u>4.1</u> 航空機から報告された現象</p> <ul style="list-style-type: none"> i METAR/SPECI 本文の低層のウィンドシア一情報で報じない現象を報ずる。 ii 観測点で観測されない現象で、当該飛行場の航空交通管制機関などから報告されたものうち下記ivの現象の存在位置を報ずる。 iii これらの現象は、通報する気象報 (航空気象定時観測気象報、航空気象特別観測気象報) の観測時刻前 30 分以内に観測され、かつ当該気象報より前の気象報で報じられていない現象のみを報ずる。航空気象定時観測気象報、航空気象特別観測気象報ともに、一度報じたものは繰り返して報ずる必要はない。 iv 報ずる現象 並以上の乱気流 (MOD 以上の TURB) 並又は激しい着氷 (MOD 又は SEV ICE) ひょう (GR) ろうと雲 (FC) 竜巻 (TDO—陸上の竜巻, WTSPT—水上の竜巻) 放電又は機体への落雷 (DISCHARGE) v 通報例 <ul style="list-style-type: none"> (a) 乱気流 SEV TURB IN APCH (b) 着氷 MOD ICE INC IN CLIMB OUT (c) 着氷 SEV ICE 2000FT KISARAZU 	<p><u>5.1</u> 航空機から報告された現象</p> <ul style="list-style-type: none"> i METAR/SPECI 本文の低層のウィンドシア一情報で報じない現象を報ずる。 ii 観測点で観測されない現象で、当該飛行場の航空交通管制機関などから報告されたものうち下記ivの現象の存在位置を報ずる。 iii これらの現象は、通報する気象報 (航空気象定時観測気象報、航空気象特別観測気象報) の観測時刻前 30 分以内に観測され、かつ当該気象報より前の気象報で報じられていない現象のみを報ずる。航空気象定時観測気象報、航空気象特別観測気象報ともに、一度報じたものは繰り返して報ずる必要はない。 iv 報ずる現象 並以上の乱気流 (MOD 以上の TURB) 並又は激しい着氷 (MOD 又は SEV ICE) ひょう (GR) ろうと雲 (FC) 竜巻 (TDO—陸上の竜巻, WTSPT—水上の竜巻) 放電又は機体への落雷 (DISCHARGE) v 通報例 <ul style="list-style-type: none"> (a) 乱気流 SEV TURB IN APCH (b) 着氷 MOD ICE INC IN CLIMB OUT (c) 着氷 SEV ICE 2000FT KISARAZU 	
<p><u>4.2</u> 風</p> <ul style="list-style-type: none"> i 測器故障により目測した場合 本文で通報した風を目測により推定した場合は、WIND EST と報ずる。 ii 全滑走路を代表する風の測器故障により他の測器を使用した場合 本文で通報した風の観測に使用した測器の位置を WIND BY EQPT/D_RD_R と報ずる。 	<p><u>5.2</u> 風</p> <ul style="list-style-type: none"> i 測器故障により目測した場合 本文で通報した風を目測により推定した場合は、WIND EST と報ずる。 ii 全滑走路を代表する風の測器故障により他の測器を使用した場合 本文で通報した風の観測に使用した測器の位置を WIND BY EQPT/D_RD_R と報ずる。 	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>4.3 視界内の現象 視界内 (飛行場から約 20 km以内) に次の現象がある場合は、その存在位置、移動方向など判明する資料を報ずる。 この場合、存在位置、方向及び移動方向には 8 方位を、頭上を示すときは OHD を用いる。また現象が 2 つ以上の方向にわたる場合は、“—” を用いる。</p> <p>i 存在位置及び移動方向を報ずるもの 雷電 (TS) 積乱雲 (CB) 塔状積雲 (TCU) 下層雲に伴う尾流雲 (VIRGA) 近い電光 (LIGHTNING) ろうと雲 (FC) 竜巻 (TDO, WTSPT)</p> <p>注：定時観測又は特別観測の観測時刻に雷電が観測された場合、略語 TS に FBL (弱)、MOD (並) 又は HVY (強) を前置して雷電の強度を報ずる。</p> <p>ii 存在位置又は存在方向を報ずるもの 霧の塊 (FG BANK) 激しいスコールライン (SEV SQL) 砂じん嵐 (DS, SS) 浮遊する濃い煙の層 (FU LYR) その他、運航上重大な影響のあると思われる大気現象</p> <p>iii 通報例 (a) 雷電 HVY TS 10KM S MOV NW (b) 積乱雲 CB <u>BANK</u> NW—NE (c) 水上の竜巻 WTSPT 3KM S MOV E (d) 霧の塊 FG BANK S—W</p>	<p>5.3 視界内の現象 視界内 (飛行場から約 20 km以内) に次の現象がある場合は、その存在位置、移動方向など判明する資料を報ずる。 この場合、存在位置、方向及び移動方向には 8 方位を、頭上を示すときは OHD を用いる。また現象が 2 つ以上の方向にわたる場合は、“—” を用いる。</p> <p>i 存在位置及び移動方向を報ずるもの 雷電 (TS) 積乱雲 (CB) 塔状積雲 (TCU) 下層雲に伴う尾流雲 (VIRGA) 近い電光 (LIGHTNING) ろうと雲 (FC) 竜巻 (TDO, WTSPT)</p> <p><u>注：識別語 AUTO が付加されている場合は、TS, CB, TCUに限る。</u> 注：定時観測又は特別観測の観測時刻に雷電が観測された場合、略語 TS に FBL (弱)、MOD (並) 又は HVY (強) を前置して雷電の強度を報ずる。<u>ただし、識別語 AUTO が付加されている場合、強度は報じない。</u></p> <p>ii 存在位置又は存在方向を報ずるもの <u>(識別語 AUTO が付加されている場合は報じない。)</u> 霧の塊 (FG BANK) 激しいスコールライン (SEV SQL) 砂じん嵐 (DS, SS) 浮遊する濃い煙の層 (FU LYR) その他、運航上重大な影響のあると思われる大気現象</p> <p>iii 通報例 (a) 雷電 HVY TS 10KM S MOV NW (b) 積乱雲 CB NW—NE (c) 水上の竜巻 WTSPT 3KM S MOV E (d) 霧の塊 FG BANK S—W</p>	<p>・自動化関連</p> <p>・自動化関連</p> <p>・自動化関連</p>
<p>4.4 気圧の上昇又は下降 気圧が観測時前 30 分間に 1 hPa を超えて上昇又は下降した場合、それぞれ P/RR (Pressure rising rapidly) 又は P/FR (Pressure falling rapidly) と報ずる。</p>	<p>5.4 気圧の上昇又は下降 気圧が観測時前 30 分間に 1 hPa を超えて上昇又は下降した場合、それぞれ P/RR (Pressure rising rapidly) 又は P/FR (Pressure falling rapidly) と報ずる。</p>	
<p>4.5 降雨強度の情報 定時観測又は特別観測において観測時刻の降雨の瞬間強度が 30 mm/h 以上の場合、RI++ と報ずる。</p>	<p>5.5 降雨強度の情報 定時観測又は特別観測において観測時刻の降雨の瞬間強度が 30 mm/h 以上の場合、RI++ と報ずる。<u>ただし、識別語 AUTO が付加されている場合は、規則 3 によることとし、本節は適用しない。</u></p>	<p>・自動化関連</p>
<p>4.6 あられの種別 雪あられ又は氷あられを観測し現在天気であられ (GS) を報ずる場合、SNOW PELLETS (雪あられ) 又は SMALL HAIL (氷あられ) を報ずる。</p>	<p>5.6 あられの種別 雪あられ又は氷あられを観測し現在天気であられ (GS) を報ずる場合、SNOW PELLETS (雪あられ) 又は SMALL HAIL (氷あられ) を報ずる。</p>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p><u>(新規)</u></p>	<p><u>5.7</u> 雷電及び重要な対流雲の情報が利用できないこと 識別語 AUTO が付加されている場合において、1. 定時飛行場実況気象通報式 (METAR) 特別飛行場実況気象通報式 (SPECI) 規則 8 の現在天気で雷電 (TS) 及び同規則 9 の雲で重要な対流雲 (CB 及び TCU) が通報できない場合は、TSCBNO (thunderstorm and significant convective clouds information not available) を報ずる。雷電 (TS) のみ通報できない場合は、TSNO (thunderstorm information not available) を報ずる。</p>	<p>・自動化関連</p>
<p>4. <u>自動飛行場実況気象通報式 (METAR AUTO)</u></p>	<p>4. <u>従来型自動飛行場実況気象通報式 (従来型 METAR AUTO)</u></p>	<p>・名称の変更</p>
<p>通報型式： METAR CCCC YYGGggZ NIL AUTO dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x VVVV { RD_RD_R/V_RV_RV_RV_Ri } w'w' } 又は { N_sN_sN_sh_sh_sh_s/ / / } { RD_RD_R/V_RV_RV_RV_RV_RV_RV_Ri } } 又は { NCD } TT'/T_d'T_d' QP_HP_HP_HP_H RMK AP_H'P_H'P_H'P_H' RIRRRR SDSSS/S_dS_dS_d</p> <p>注： (1) 識別語 NIL は、欠測報に対して適宜使用する。</p>	<p>通報型式： METAR CCCC YYGGggZ NIL AUTO dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x VVVV { RD_RD_R/V_RV_RV_RV_Ri } w'w' } 又は { N_sN_sN_sh_sh_sh_s/ / / } { RD_RD_R/V_RV_RV_RV_RV_RV_RV_Ri } } 又は { NCD } TT'/T_d'T_d' QP_HP_HP_HP_H RMK AP_H'P_H'P_H'P_H' RIRRRR SDSSS/S_dS_dS_d</p> <p>注： (1) 識別語 NIL は、欠測報に対して適宜使用する。</p>	
<p>規則：</p>	<p>規則：</p>	
<p>1 通則</p>	<p>1 通則</p>	
<p>1.1 METAR は個々の本文の文頭に置き、これに続いて観測所の国際 4 文字地点略号以下を報ずる。 YYGGggZ 群は観測日時を表し、個々の METAR AUTO 報に含める。</p>	<p>1.1 METAR は個々の本文の文頭に置き、これに続いて観測所の国際 4 文字地点略号以下を報ずる。 YYGGggZ 群は観測日時を表し、個々の METAR AUTO 報に含める。</p>	
<p>1.2 一通以上の METAR AUTO 報を含む編集報の場合は、個々の METAR AUTO 報を行頭から報ずる。</p>	<p>1.2 一通以上の METAR AUTO 報を含む編集報の場合は、個々の METAR AUTO 報を行頭から報ずる。</p>	
<p>2 CCCC 群—地点略号 個々の本文の通報地点は ICAO の国際 4 文字地点略号により報ずる (付録 地点略号表参照)。</p>	<p>2 CCCC 群—地点略号 個々の本文の通報地点は ICAO の国際 4 文字地点略号により報ずる (付録 地点略号表参照)。</p>	
<p>3 YYGGggZ 群—観測日時</p>	<p>3 YYGGggZ 群—観測日時</p>	
<p>3.1 観測日時の日付及び時分 (UTC) の次にスペースを置かずに指示符 Z を付す。</p>	<p>3.1 観測日時の日付及び時分 (UTC) の次にスペースを置かずに指示符 Z を付す。</p>	
<p>4 AUTO</p>	<p>4 AUTO</p>	
<p>4.1 AUTO を風の群の前に報ずる。</p>	<p>4.1 AUTO を風の群の前に報ずる。</p>	
<p>5 dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x 群—風</p>	<p>5 dddffGf_mf_mKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x 群—風</p>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
5.1 定時飛行場実況気象通報式の風の通報に係る規則により報ずる。ただし、風が欠測の場合は////KTと報ずる。	5.1 定時飛行場実況気象通報式の風の通報に係る規則により報ずる。ただし、風が欠測の場合は////KTと報ずる。	
6 VVVV 群—視程	6 VVVV 群—視程	
6.1 定時飛行場実況気象通報式の視程の通報に係る規則により、観測装置で得られた視程の値を報ずる。 <u>ただし、視程が欠測、又は視程を観測しない場合は////と報ずる。</u>	6.1 定時飛行場実況気象通報式の視程の通報に係る規則により、観測装置で得られた視程の値を報ずる。 <u>視程が欠測、又は視程を観測しない場合は////を報ずる。また、自動観測により航空気象定時観測気象報の通報を行っている空港 (一部の時間帯に自動観測により航空気象定時観測気象報の通報を行っている空港を含む) については常に////を報ずる。</u>	・自動化に伴う運用変更
7 RD _R D _R /V _R V _R V _R V _R i 又は RD _R D _R /V _R V _R V _R V _R V _R V _R V _R i } 群—滑走路視距離 (RVR)	7 RD _R D _R /V _R V _R V _R V _R i 又は RD _R D _R /V _R V _R V _R V _R V _R V _R V _R i } 群—滑走路視距離 (RVR)	
7.1 定時飛行場実況気象通報式の滑走路視距離の通報に係る規則により報ずる。	7.1 定時飛行場実況気象通報式の滑走路視距離の通報に係る規則により報ずる。	
8 w'w' 群—現在天気 (略語)	8 w'w' 群—現在天気 (略語)	
8.1 定時飛行場実況気象通報式の現在天気の通報に係る規則により、観測装置で得られた天気現象を報ずる。 <u>ただし、報ずる天気現象は「雨 (RA)」又は「雪 (SN)」のいずれか1つの現象に限ることとし、これらの天気現象に該当しない場合には省略する。また、強度・周辺現象及び特性は付加しない。また、「雨 (RA)」は天気略語表の「霧雨 (DZ)」の場合を、「雪 (SN)」は同じく「氷あられ/雪あられ (GS)」及び「みぞれ (RASN 又は SNRA)」の場合を含む。現在天気が欠測、又は現在天気を観測しない場合は//と報ずる。</u>	8.1 定時飛行場実況気象通報式の現在天気の通報に係る規則により、観測装置で得られた天気現象を報ずる。 <u>報ずる現象は「雨 (RA)」又は「雪 (SN)」のいずれか1つに限ることとし、これらの現象に該当しない場合には省略する。また、強度・周辺現象及び特性は付加しない。また、「雨 (RA)」は天気略語表 1 の「霧雨 (DZ)」の場合を、「雪 (SN)」は同じく「氷あられ/雪あられ (GS)」及び「みぞれ (RASN 又は SNRA)」の場合を含む。現在天気が欠測、又は現在天気を観測しない場合は//と報ずる。ただし、自動観測により航空気象定時観測気象報の通報を行っている空港 (一部の時間帯に自動観測により航空気象定時観測気象報の通報を行っている空港を含む) については常に//を報ずる。</u>	・自動化に伴う運用変更
9 N _s N _s N _s h _s h _s h _s /// 又は NCD } 群—雲	9 N _s N _s N _s h _s h _s h _s /// 又は NCD } 群—雲	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>9.1 定時飛行場実況気象通報式の雲の通報に係る規則により、観測装置で識別した雲層 (雲塊) の雲量及び雲底の高さを報ずる。ただし、次に示す場合はこの限りではない。</p> <p>(1) 雲が検知されない場合は、NCD (no cloud) と報ずる。</p> <p>(2) 個々の雲層 (雲塊) の雲量を決定する場合は、下層の雲層に隠された部分は雲層があるものと見なして推定する。</p> <p>(3) 雲の群はいくつもの雲層又雲塊を識別した場合は繰り返して 3 群まで報ずる。また、重要な対流雲は識別せず、付加群は報じない。</p> <p>(4) 雲底高度が不明又は欠測の場合は////////と、雲量が欠測の場合は//h_gh_g///と報ずる。</p> <p>(5) 雲底高度を観測しない場合は////////と、雲層 (雲塊) を識別できないが雲底の高さのみ得られている場合は//h_gh_g///として 1 群のみ報ずる。</p> <p style="text-align: center;"><u>(新規)</u></p>	<p>9.1 定時飛行場実況気象通報式の雲の通報に係る規則により、観測装置で識別した雲層 (雲塊) の雲量及び雲底の高さを報ずる。ただし、次に示す場合はこの限りではない。</p> <p>(1) 雲が検知されない場合は、NCD (no cloud <u>detected</u>) と報ずる。</p> <p>(2) 個々の雲層 (雲塊) の雲量を決定する場合は、下層の雲層に隠された部分は雲層があるものと見なして推定する。</p> <p>(3) 雲の群はいくつもの雲層又雲塊を識別した場合は繰り返して 3 群まで報ずる。また、重要な対流雲は識別せず、付加群は報じない。</p> <p>(4) 雲底の高さが不明又は欠測の場合は////////と、雲量が欠測の場合は//h_gh_g///と報ずる。</p> <p>(5) 雲底の高さを観測しない場合は////////と、雲層 (雲塊) を識別できないが雲底の高さのみ得られている場合は//h_gh_g///として 1 群のみ報ずる。</p> <p><u>(6) 自動観測により航空気象定時観測気象報の通報を行っている空港 (一部の時間帯に自動観測により航空気象定時観測気象報の通報を行っている空港を含む) については常に////////を報ずる。</u></p>	<p>・誤記修正</p> <p>・表現の見直し</p> <p>・表現の見直し</p> <p>・自動化に伴う運用変更</p>
<p>10 TT'/T_dT_d 群-気温/露点温度</p>	<p>10 TT'/T_dT_d 群-気温/露点温度</p>	
<p>10.1 定時飛行場実況気象通報式の気温/露点温度の通報に係る規則により報ずる。</p>	<p>10.1 定時飛行場実況気象通報式の気温/露点温度の通報に係る規則により報ずる。</p>	
<p>11 QP_gP_gP_gP_g 群-アルティメーター・セッティング</p>	<p>11 QP_gP_gP_gP_g 群-アルティメーター・セッティング</p>	
<p>11.1 定時飛行場実況気象通報式のアルティメーター・セッティングの通報に係る規則により報ずる。</p>	<p>11.1 定時飛行場実況気象通報式のアルティメーター・セッティングの通報に係る規則により報ずる。</p>	
<p>12 RMK</p>	<p>12 RMK</p>	
<p>12.1 RMK は、RIRRR 群の前に報じ、記事の群が続くことを示す。</p>	<p>12.1 RMK は、RIRRR 群の前に報じ、記事の群が続くことを示す。</p>	
<p>13 AP_gP_gP_gP_g 群-アルティメーター・セッティング [QNH(inHg)]</p>	<p>13 AP_gP_gP_gP_g 群-アルティメーター・セッティング [QNH(inHg)]</p>	
<p>13.1 定時飛行場実況気象通報式のアルティメーター・セッティング [QNH(inHg)] の通報に係る規則により報ずる。</p>	<p>13.1 定時飛行場実況気象通報式のアルティメーター・セッティング [QNH(inHg)] の通報に係る規則により報ずる。</p>	
<p>14 RIRRR 群-降雨強度</p>	<p>14 RIRRR 群-降雨強度</p>	
<p>14.1 降雨強度は、指示文字 RI を前置し、続けて 1mm/h の 100 位、10 位及び 1 位を報ずる。</p>	<p>14.1 降雨強度は、指示文字 RI を前置し、続けて 1mm/h の 100 位、10 位及び 1 位を報ずる。</p>	
<p>14.2 降雨強度が欠測の場合は RI///と報ずる。</p>	<p>14.2 降雨強度が欠測の場合は RI///と報ずる。</p>	
<p>15 SDSSS/S_dS_dS_d 群-積雪</p>	<p>15 SDSSS/S_dS_dS_d 群-積雪</p>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
15. 1 積雪の深さ及び1時間前の積雪の深さとの差 SSS/S ₀ S ₁ S _d	15. 1 積雪の深さ及び1時間前の積雪の深さとの差 SSS/S ₀ S ₁ S _d	
15. 2 積雪の深さ及び1時間前の積雪の深さとの差は、指示文字SDを前置し、それぞれ1cmの100位、10位及び1位を報ずる。	15. 2 積雪の深さ及び1時間前の積雪の深さとの差は、指示文字SDを前置し、それぞれ1cmの100位、10位及び1位を報ずる。	
15. 3 積雪の深さ又は1時間前の積雪の深さとの差が欠測の場合、それぞれ数値に代えて///を報ずる。また、積雪を観測しない場合はこれを報じない。	15. 3 積雪の深さ又は1時間前の積雪の深さとの差が欠測の場合、それぞれ数値に代えて///を報ずる。また、積雪を観測しない場合はこれを報じない。	
5. 運航用飛行場予報気象通報式 (TAF)	5. 運航用飛行場予報気象通報式 (TAF)	
(略)	(略)	
注： (1) TAF は、運航用飛行場予報の通報に用いる。 (2) 識別語 AMD は修正、 CNL は取り消し 、COR は訂正、NIL は予報発表無しの場合に適宜使用する。	注： (1) TAF は、運航用飛行場予報の通報に用いる。 (2) 識別語 AMD は修正、COR は訂正、NIL は予報発表無しの場合に適宜使用する。	
(略)	(略)	
5. 1 重要な予報天気 w' w' は、以下の現象及び場合によっては強度に限り、 天気略語表 にある適切な略語を用いて報ずる。 (略)	5. 1 重要な予報天気 w' w' は、以下の現象及び場合によっては強度に限り、 天気略語表1 にある適切な略語を用いて報ずる。 (略)	・「天気略語表」→「天気略語表1, 2」への変更による
(略)	(略)	
7 注：(1) その他視界内の視程障害現象の扱いについては航空気象観測指針参照。 (2) 最低扇形別高度は、AIP JAPAN に次のように定義されている。 <u>航行用無線施設を中心とした半径 25 海里の円内の部分に含まれる区域に所在する全ての障害物から、平野部については 300m (1000ft) , 山岳部については 600m (2000ft) の垂直間隔をもって設定した緊急時用の最低高度。</u> (略)	7 注：(1) その他視界内の視程障害現象の扱いについては航空気象観測指針参照。 (2) 最低扇形別高度は、AIP JAPAN に次のように定義されている。 <u>計器進入方式に使用される航空保安無線施設(RNAV 進入方式においては飛行場標点) を中心に半径 25 海里の扇形区域内の全ての障害物から、平野部においては 300 m(1000ft)、山岳部においては 600m(2000ft) の垂直間隔を以って設定した最低高度。</u> (略)	・表現の見直し

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>8.1 この群は, Y1Y1G1G1 から Y2Y2G2G2 の期間に予報要素のいくつか又は全部がその期間内のある時刻 YYG から YeYeGeGe の期間内に変化すると予想される場合に使用する。この群は, Y1Y1G1G1 から Y2Y2G2G2 までの期間内の必要な全予報要素を記述した後でなければ用いてはならない。 注: (1) 予報期間の終了時刻が 00UTC (24UTC) の場合, <u>YeYe を 00UTC の前日の日付とし, GeGe は 24 とする。</u> (2) 変化群を含めるための基準は「航空気象予報業務実施要領」による。</p>	<p>8.1 この群は, Y1Y1G1G1 から Y2Y2G2G2 の期間に予報要素のいくつか又は全部がその期間内のある時刻 YYG から YeYeGeGe の期間内に変化すると予想される場合に使用する。この群は, Y1Y1G1G1 から Y2Y2G2G2 までの期間内の必要な全予報要素を記述した後でなければ用いてはならない。 注: (1) 予報期間の終了時刻が 00UTC (24UTC) の場合, <u>GeGe は 00 とする。</u> (2) 変化群を含めるための基準は「航空気象予報業務実施要領」による。</p>	<p>・ ICAO ANNEX3 77 次改正対応 (※H29. 3. 2 適用)</p>
<p>6. ボルメット放送向け運航用飛行場予報気象通報式 (VOLMET) (略)</p>	<p>6. ボルメット放送向け運航用飛行場予報気象通報式 (VOLMET) (略)</p>	
<p>(略)</p> <p>符号解説: (1) VOLMET はボルメット放送向け運航用飛行場予報を表す <u>識別符</u> である。 (2) 各群については, 運航用飛行場予報気象通報式 (TAF) に従って使用する。 (3) 識別語 AMD は修正, <u>CNL は取り消し</u>, COR は訂正の場合に適宜使用する。</p>	<p>(略)</p> <p>符号解説: (1) VOLMET はボルメット放送向け運航用飛行場予報を表す <u>識別語</u> である。 (2) 各群については, 運航用飛行場予報気象通報式 (TAF) に従って使用する。 (3) 識別語 AMD は修正, COR は訂正の場合に適宜使用する。</p>	<p>・ 誤記修正 ・ 当庁では使用しない <u>識別語の削除</u></p>
<p>(略)</p>	<p>(略)</p>	
<p>7. 変化又は変動の図解 (略)</p>	<p>7. 変化又は変動の図解 (略)</p>	
<p>8. 各種通報例</p>	<p>8. 各種通報例</p>	
<p>1. SAJP RJTT 300000 METAR RJTT 300000Z 31015G27KT 280V350 1500 R34L/0600VP1800U R22/0500V1400U R34R/P1800N BR SCT003 BKN006 BKN020 FEW020CB 02/01 Q1000 WS R34R <u>RMK</u> 3ST003 5CU006 6CU020 2CB020 A2954 0600SE-SW SEV ICE 2000FT KISARAZU <u>B747</u> CB 5KM S MOV SE P/FR= <u>(新規)</u></p>	<p>1. SAJP RJTT 300000 METAR RJTT 300000Z 31015G27KT 280V350 1500 R34L/0600VP1800U R22/0500V1400U R34R/P1800N BR SCT003 BKN006 BKN020 FEW020CB 02/01 Q1000 WS R34R <u>NOSIG</u> RMK 3ST003 5CU006 6CU020 2CB020 A2954 0600SE-SW SEV ICE 2000FT KISARAZU <u>B777</u> CB 5KM S MOV SE P/FR= <u>(上記の自動観測)</u> METAR RJTT 300000Z <u>AUTO</u> 31015G27KT 280V350 1500 R34L/0600VP1800U R22/0500V1400U R34R/P1800N BR SCT003 BKN006 BKN020 <u>//////CB</u> 02/01 Q1000 WS R34R <u>NOSIG</u> RMK <u>A2954</u> SEV ICE 2000FT KISARAZU <u>B777</u> CB 5KM S MOV SE P/FR=</p>	<p>・ 自動化に伴う通報例の追加 (以下同じ)</p>

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
2. SAJP RJSS 300600 METAR RJSS 300600Z 15006KT 4500 -RA BR NSC 20/18 Q1006 RMK 4AC100 7AC120 A2971= <u>(新規)</u>	2. SAJP RJSS 300600 METAR RJSS 300600Z 15006KT 4500 -RA BR NSC 20/18 Q1006 RMK 4AC100 7AC120 A2971= <u>(上記の自動観測)</u> METAR RJSS 300600Z <u>AUTO</u> 15006KT 4500 -RA BR NSC 20/18 Q1006 RMK <u>A2971</u> =	
3. SAJP RJAA 300000 METAR RJAA 300000Z 17006KT 120V220 9999 RA BKN010 OVC080 19/18 Q1010 BECMG FM0100 BKN008 BKN015 RMK 6CU010 8AS080 A2985= <u>(新規)</u>	3. SAJP RJAA 300000 METAR RJAA 300000Z 17006KT 120V220 9999 RA BKN010 OVC080 19/18 Q1010 BECMG FM0100 BKN008 BKN015 RMK 6CU010 8AS080 A2985= <u>(上記の自動観測)</u> METAR RJAA 300000Z <u>AUTO</u> 17006KT 120V220 9999 RA BKN010 OVC080 19/18 Q1010 BECMG FM0100 BKN008 BKN015 RMK <u>A2985</u> <u>RI005</u> =	
4. SAJP RJEB 300000 METAR RJEB 300000Z 09007KT <u>050V120 CAVOK</u> 20/15 Q1004 RMK A2964=	4. SAJP RJEB 300000 METAR RJEB 300000Z 09007KT 050V120 CAVOK 20/15 Q1004 RMK A2964= <u>(上記の自動観測)</u> METAR RJEB 300000Z <u>AUTO</u> 09007KT 050V120 <u>9999 NSC</u> 20/15 Q1004 RMK A2964=	
5. SPJP RJFO 180018 SPECI RJFO 180018Z 05019G29KT 9999 SHRA SCT005 BKN010 BKN025 25/23 Q0996 RMK 3CU005 6CU010 7CU025 A2942=	5. SPJP RJFO 180018 SPECI RJFO 180018Z 05019G29KT 9999 SHRA SCT005 BKN010 BKN025 25/23 Q0996 RMK 3CU005 6CU010 7CU025 A2942= <u>(上記の自動観測)</u> SPECI RJFO 180018Z <u>AUTO</u> 05019G29KT 9999 <u>RA</u> SCT005 BKN010 BKN025 25/23 Q0996 RMK <u>A2942</u> <u>RI010</u> =	
6. FTJP31 RJTT 131100 TAF RJTT 131117Z 1312/1418 31015KT 8000 SHRA SCT005 FEW010CB SCT018 BKN025 TEMPO 1318/1321 4000 +SHRA=	6. FTJP31 RJTT 131100 TAF RJTT 131117Z 1312/1418 31015KT 8000 SHRA SCT005 FEW010CB SCT018 BKN025 TEMPO 1318/1321 4000 +SHRA=	
7. SAXX90 RJEC 090820 METAR RJEC 090820Z AUTO VRB02KT 9999 // BKN025/// M01/M03 Q1023 RMK A3022 RI000 SD025/000=	7. SAXX90 RJEC 090820 METAR RJEC 090820Z AUTO VRB02KT 9999 // BKN025/// M01/M03 Q1023 RMK A3022 RI000 SD025/000= <u>(完全な自動観測を実施する空港の従来型 METAR AUTO)</u> METAR RJEC 090820Z AUTO VRB02KT <u>////</u> // <u>////////</u> M01/M03 Q1023 RMK A3022 RI000 SD025/000=	
<u>8. SAJP RJFU 090300 CCA</u> <u>METAR COR RJFU 090300Z 35006KT 9999 -RA FEW040 SCT060 BKN110 21/15 Q1009</u> <u>RMK 1CU040 3SC060 7AC110 A2981=</u>	<u>(削除)</u>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p><u>(新規)</u></p>	<p><u>8. SAJP RJBB 301930</u> <u>METAR RJBB 301930Z 07015G30KT 1200 R06R/0900D R06L/1200D +TSRA BR FEW005</u> <u>SCT008 BKN010CB 14/13 Q1001 NOSIG RMK 1ST005 4ST008 7CB010</u> <u>A2956 MOD TS OHD MOV E P/FR RI++=</u></p> <p><u>(上記の自動観測)</u> <u>METAR RJBB 301930Z AUTO 07015G30KT 1200 R06R/0900D R06L/1200D +TSRA BR</u> <u>FEW005 SCT008 BKN010 //CB 14/13 Q1001 NOSIG RMK A2956 RI035</u> <u>TS OHD MOV E P/FR=</u></p> <p><u>(TS・CB 情報が通報できないとき)</u> <u>METAR RJBB 301930Z AUTO 07015G30KT 1200 R06R/0900D R06L/1200D +RA BR</u> <u>FEW005 SCT008 BKN010 14/13 Q1001 NOSIG RMK A2956 RI035 TSCBNO</u> <u>P/FR=</u></p>	
<p>9. 航空気象観測所実況気象通報式 (SCAN)</p>	<p>9. 航空気象観測所実況気象通報式 (SCAN)</p>	
<p>(略)</p>	<p>(略)</p>	
<p>10. 自動雷航空実況気象通報式</p>	<p>10. 自動雷航空実況気象通報式</p>	
<p>(略)</p>	<p>(略)</p>	
<p>11. 識別語及び符号の定義</p>	<p>11. 識別語及び符号の定義</p>	
<p>(a) 識別語及び文字群 定義及び解説</p> <p>A -QNH の値がインチ (inHg) であることを表す指示文字</p> <p>ALL -ウィンドシアーが飛行場の全滑走路に影響することを表す語</p> <p>AMD -予報の修正を示す。</p> <p>AUTO -人手を介さない完全な自動観測による航空観測気象報であることを表す語</p> <p>BECMG -規則的又は不規則な変化をして、新しい状態に変化することを表す指示文字</p> <p>CAVOK -特定の状態の場合に、視程、現在天気及び雲の資料の代わりに報ずる語</p> <p>COR -訂正報であることを表す語</p> <p><u>CNL</u> -<u>予報の取り消しを示す</u></p> <p>G -最大瞬間風速を表す指示文字</p> <p>KT -風速の単位 (ノット) を示す指示文字</p> <p>METAR -一定時飛行場実況を表す識別語</p> <p>NCD -<u>METAR AUTO で</u>、雲が検知されないことを表す語</p> <p>NOSIG -気象要素に重要な変化が予報されないことを報ずる語</p> <p>NSC -運航上重要な影響を与える雲がないことを表す語</p> <p>NSW -天気略語表による運航に重要な天気の状態の終了が予想されることを表す語</p> <p>Q -QNH の値がヘクトパスカル (hPa) であることを表す指示文字</p> <p>R -滑走路視距離 (RVR) を表す指示文字</p> <p>RI -降雨強度を表す指示文字</p> <p>RMK -国内記事の始まりを表す。</p> <p>RWY -滑走路を表す語</p> <p>SD -積雪を表す指示文字</p> <p>SKC -雲が全くないことを表す語</p> <p>SPECI -特別飛行場実況を表す識別語</p>	<p>(a) 識別語及び文字群 定義及び解説</p> <p>A -QNH の値がインチ (inHg) であることを表す指示文字</p> <p>ALL -ウィンドシアーが飛行場の全滑走路に影響することを表す語</p> <p>AMD -予報の修正を示す。</p> <p>AUTO -人手を介さない完全な自動観測による航空観測気象報であることを表す語</p> <p>BECMG -規則的又は不規則な変化をして、新しい状態に変化することを表す指示文字</p> <p>CAVOK -特定の状態の場合に、視程、現在天気及び雲の資料の代わりに報ずる語</p> <p>COR -訂正報であることを表す語</p> <p style="text-align: center;">(削除)</p> <p>G -最大瞬間風速を表す指示文字</p> <p>KT -風速の単位 (ノット) を示す指示文字</p> <p>METAR -一定時飛行場実況を表す識別語</p> <p>NCD -<u>自動観測において</u>、雲が検知されないことを表す語</p> <p>NOSIG -気象要素に重要な変化が予報されないことを報ずる語</p> <p>NSC -運航上重要な影響を与える雲がないことを表す語</p> <p>NSW -天気略語表による運航に重要な天気の状態の終了が予想されることを表す語</p> <p>Q -QNH の値がヘクトパスカル (hPa) であることを表す指示文字</p> <p>R -滑走路視距離 (RVR) を表す指示文字</p> <p>RI -降雨強度を表す指示文字</p> <p>RMK -国内記事の始まりを表す。</p> <p>RWY -滑走路を表す語</p> <p>SD -積雪を表す指示文字</p> <p>SKC -雲が全くないことを表す語</p> <p>SPECI -特別飛行場実況を表す識別語</p>	<p>・当庁では使用しない識別語の削除</p> <p>・自動化関連</p>

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)		改正後 (改正第 16 号)		備考
TAF	— 運航用飛行場予報を表す識別語	TAF	— 運航用飛行場予報を表す識別語	<ul style="list-style-type: none"> ・自動化関連 ・自動化関連
TEMPO	— 一時的な変化を表す指示文字	TEMPO	— 一時的な変化を表す指示文字	
	(新規)	TSNO	— 自動観測において、雷電(TS)が通報できないことを表す語	
	(新規)	TSCBNO	— 自動観測において、雷電(TS)及び重要な対流雲(CB 及び TCU)が通報できないことを表す語	
V	— 変動している要素の 2 つの極値をスペースを置かずに区分する指示文字	V	— 変動している要素の 2 つの極値をスペースを置かずに区分する指示文字	
VOLMET	— ボルメット放送向け運航用飛行場予報を表す識別語	VOLMET	— ボルメット放送向け運航用飛行場予報を表す識別語	
VRB	— 風向が定まらないことを表す語	VRB	— 風向が定まらないことを表す語	
VV	— 鉛直視程を表す指示文字	VV	— 鉛直視程を表す指示文字	
WS	— ウィンドシアアを表す略語	WS	— ウィンドシアアを表す略語	
Z	— 時刻群に付加する指示文字	Z	— 時刻群に付加する指示文字	
(b) 符 号	定義及び解説	(b) 符 号	定義及び解説	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICAO ANNEX3 77 次改正対応 (※H29. 3. 2 適用)
CC	— 2 文字で示した雲形 (国内記事の第 3 表参照)	CC	— 2 文字で示した雲形 (国内記事の第 3 表参照)	
CCCC	— ICAO 国際 4 文字地点略号 (付録 地点略号表参照)	CCCC	— ICAO 国際 4 文字地点略号 (付録 地点略号表参照)	
D _v	— 8 方位で示した方向で 1 ~ 2 文字で表す (N, NE 等)。2 つ以上の方向にわたる場合は N-NE のように表す。	D _v	— 8 方位で示した方向で 1 ~ 2 文字で表す (N, NE 等)。2 つ以上の方向にわたる場合は N-NE のように表す。	
D _R D _R	— 滑走路番号。平行滑走路の場合には、平行滑走路の左、中央、右を示す L, C, R を当該 D _R D _R に付加する。これらの文字を D _R D _R に付加する場合は、ICAO 第 14 付属書により定められた滑走路指定の標準方式による。	D _R D _R	— 滑走路番号。平行滑走路の場合には、平行滑走路の左、中央、右を示す L, C, R を当該 D _R D _R に付加する。これらの文字を D _R D _R に付加する場合は、ICAO 第 14 付属書により定められた滑走路指定の標準方式による。	
ddd	— 風向 (真方位) 北を 360 とする 10 度単位で報ずる。したがって、ddd の 3 番目の数字は、風向が定まらない場合を除いて、常に 0 で報ずる。	ddd	— 風向 (真方位) 北を 360 とする 10 度単位で報ずる。したがって、ddd の 3 番目の数字は、風向が定まらない場合を除いて、常に 0 で報ずる。	
d _n d _n d _n	— 変動する風向の左方向の極値 (真方位) 36 方位で 10 度単位で報ずる。	d _n d _n d _n	— 変動する風向の左方向の極値 (真方位) 36 方位で 10 度単位で報ずる。	
d _x d _x d _x	— 変動する風向の右方向の極値 (真方位) 36 方位で 10 度単位で報ずる。	d _x d _x d _x	— 変動する風向の右方向の極値 (真方位) 36 方位で 10 度単位で報ずる。	
ff	— 風速—1 ノット単位 風速が 100 ノット以上の場合、2 桁の数字符号 ff に代えて P99 を報ずる。	ff	— 風速—1 ノット単位 風速が 100 ノット以上の場合、2 桁の数字符号 ff に代えて P99 を報ずる。	
f _m f _m	— 最大瞬間風速—1 ノット単位 風速が 100 ノット以上の場合、2 桁の数字符号 f _m f _m に代えて P99 を報ずる。	f _m f _m	— 最大瞬間風速—1 ノット単位 風速が 100 ノット以上の場合、2 桁の数字符号 f _m f _m に代えて P99 を報ずる。	
GG	— 予想される変化の始まる時刻 (UTC) — 1 時間単位	GG	— 予想される変化の始まる時刻 (UTC) — 1 時間単位	
G ₀ G ₀	— GG から始まる予想される変化の期間の終了時刻 (UTC) — 1 時間単位	G ₀ G ₀	— GG から始まる予想される変化の期間の終了時刻 (UTC) — 1 時間単位	
G ₁ G ₁	— 予報発効時刻 (UTC) — 1 時間単位 予報発効時刻が 00UTC の場合は、G ₁ G ₁ =00 と報ずる。	G ₁ G ₁	— 予報発効時刻 (UTC) — 1 時間単位 予報発効時刻が 00UTC の場合は、G ₁ G ₁ =00 と報ずる。	
G ₂ G ₂	— 予報期間の終了時刻 (UTC) — 1 時間単位 予報期間の終了時刻が 00UTC (24UTC) の場合は、G ₂ G ₂ =24 と報ずる。	G ₂ G ₂	— 予報期間の終了時刻 (UTC) — 1 時間単位 予報期間の終了時刻が 00UTC (24UTC) の場合は、G ₂ G ₂ =00 と報ずる。	
GGgg	— 観測時刻又は予報時刻 (UTC) — GG は 1 時間単位、gg は 1 分単位 (1) METAR の場合は、観測時刻 (2) SPECI の場合は、通報する基準の天気変化が発生し、SPECI 報を作成完了した時刻 (3) TAF の場合は、予報発表時刻	GGgg	— 観測時刻又は予報時刻 (UTC) — GG は 1 時間単位、gg は 1 分単位 (1) METAR の場合は、観測時刻 (2) SPECI の場合は、通報する基準の天気変化が発生し、SPECI 報を作成完了した時刻 (3) TAF の場合は、予報発表時刻	
h _s h _s h _s	— 雲層又は雲塊の雲底の高さ又は鉛直視程の観測値/予報値 METAR/SPECI の第 1 表で報ずる。	h _s h _s h _s	— 雲層又は雲塊の雲底の高さ又は鉛直視程の観測値/予報値 METAR/SPECI の第 1 表で報ずる。	
h _s 'h _s 'h _s '	— 雲層又は雲塊の雲底の高さの観測値 METAR/SPECI の第 1 表に準拠するが、5000 フィートを超える場合は XXX を報ずる。	h _s 'h _s 'h _s '	— 雲層又は雲塊の雲底の高さの観測値 METAR/SPECI の第 1 表に準拠するが、5000 フィートを超える場合は XXX を報ずる。	
i	— 滑走路視距離の変化傾向 上昇の場合 i=U, 下降の場合 i=D, 著しい変化がない場合 i=N, 不明の場合は	i	— 滑走路視距離の変化傾向 上昇の場合 i=U, 下降の場合 i=D, 著しい変化がない場合 i=N, 不明の場合は	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>N_s 省略する。 — 8 分雲量で表した雲量 (国内記事の第 2 表参照)</p> <p>$N_s N_s N_s$ —雲量 1~2 オクタスを FEW (few : 少しの), 3~4 オクタスを SCT (scattered : 散在している), 5~7 オクタスを BKN (broken : 隙間あり), 8 オクタスを OVC (overcast : 全天を覆う) で表す。</p> <p>$N'_s N'_s N'_s$ —雲量 ($N_s N_s N_s$ 参照)</p> <p>$P_H P_H P_H$ —QNH (アルティメーター・セッティング) の値—1hPa 単位</p> <p>$P'_H P'_H P'_H$ —QNH (アルティメーター・セッティング) の値—1/100inHg 単位</p> <p>RRR —降雨強度—1mm/h</p> <p>SSS —積雪の深さ—1cm 単位</p> <p>$S_d S_d S_d$ —1 時間前の積雪の深さとの差—1cm 単位</p> <p>TT —時刻群にスペースを置かずに前置する 2 文字の指示文字 内容はそれぞれ TT=AT (~に), FM (~から), TL (~まで) を表す。</p> <p>$T'T'$ —気温—1℃単位 0℃より低いときは $T'T'$ に M を前置する。</p> <p>$T'_d T'_d$ —露点温度—1℃単位 0℃より低いときは $T'_d T'_d$ に M を前置する。</p> <p>TTTT —飛行場予報の変化を示す。(BECMG, TEMPO)</p> <p>VVV —<u>卓越視程</u>—1m 単位 5000m までは 100m 間隔で, 5000m を超え 10 km 未満までは 1000m 間隔, 10 km 以上は 9999 と報ずる。</p> <p>$V_D V_D V_D$ —方向視程—1m 単位 5000m までは 100m 間隔で, 5000m を超え 10 km 未満までは 1000m 間隔, 10 km 以上は 9999 と報ずる。</p> <p>$V_R V_R V_R$ —滑走路視距離 (RVR) —1m 単位 <u>滑走路視距離が 800m までは 50m 間隔, 800m~1200m までは 100m 間隔, 1200m を超える場合は 200m 間隔で報ずる。</u></p> <p>$w'w'$ —運航上重要な天気 我が国では, 天気略語表による略語を報ずる。</p> <p>$w''w''$ —特別な現在天気</p> <p>YY —観測日時の日付又は予報発表の日付</p> <p>$Y_e Y_e$ —予想される変化の終わる日付 (UTC)</p> <p>$Y_1 Y_1$ —予報の発効する日付</p> <p>$Y_2 Y_2$ —予報の終了する日付 (UTC)</p>	<p>N_s 省略する。 — 8 分雲量で表した雲量 (国内記事の第 2 表参照)</p> <p>$N_s N_s N_s$ —雲量 1~2 オクタスを FEW (few : 少しの), 3~4 オクタスを SCT (scattered : 散在している), 5~7 オクタスを BKN (broken : 隙間あり), 8 オクタスを OVC (overcast : 全天を覆う) で表す。</p> <p>$N'_s N'_s N'_s$ —雲量 ($N_s N_s N_s$ 参照)</p> <p>$P_H P_H P_H$ —QNH (アルティメーター・セッティング) の値—1hPa 単位</p> <p>$P'_H P'_H P'_H$ —QNH (アルティメーター・セッティング) の値—1/100inHg 単位</p> <p>RRR —降雨強度—1mm/h</p> <p>SSS —積雪の深さ—1cm 単位</p> <p>$S_d S_d S_d$ —1 時間前の積雪の深さとの差—1cm 単位</p> <p>TT —時刻群にスペースを置かずに前置する 2 文字の指示文字 内容はそれぞれ TT=AT (~に), FM (~から), TL (~まで) を表す。</p> <p>$T'T'$ —気温—1℃単位 0℃より低いときは $T'T'$ に M を前置する。</p> <p>$T'_d T'_d$ —露点温度—1℃単位 0℃より低いときは $T'_d T'_d$ に M を前置する。</p> <p>TTTT —飛行場予報の変化を示す。(BECMG, TEMPO)</p> <p>VVV —<u>視程</u>—1m 単位 5000m までは 100m 間隔で, 5000m を超え 10 km 未満までは 1000m 間隔, 10 km 以上は 9999 と報ずる。</p> <p>$V_D V_D V_D$ —方向視程—1m 単位 5000m までは 100m 間隔で, 5000m を超え 10 km 未満までは 1000m 間隔, 10 km 以上は 9999 と報ずる。</p> <p>$V_R V_R V_R$ —滑走路視距離 (RVR) —1m 単位 <u>滑走路視距離が 400m までは 25m 間隔, 400m~800m までは 50m 間隔, 800m を超える場合は 100m 間隔で報ずる。ただし, 観測できる滑走路視距離の上限が 1800m の場合, 800m までは 50m 間隔, 800m を超える場合は 100m 間隔で報ずる。</u></p> <p>$w'w'$ —運航上重要な天気 我が国では, 天気略語表による略語を報ずる。</p> <p>$w''w''$ —特別な現在天気</p> <p>YY —観測日時の日付又は予報発表の日付</p> <p>$Y_e Y_e$ —予想される変化の終わる日付 (UTC)</p> <p>$Y_1 Y_1$ —予報の発効する日付</p> <p>$Y_2 Y_2$ —予報の終了する日付 (UTC)</p>	<p>・自動化関連</p> <p>・機器更新関連</p>
付 録	付 録	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>I 地点略号 業務の参考のために下記により地点略号を収載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 航空路誌 (AIP 国土交通省航空局発行) に記載されている日本の全地点略号。 2. 海上自衛隊, 在日米軍の地点略号のうち気象資料の放送に用いられている地点略号。 3. 国際民間航空機関 (ICAO) 発行の LOCATION INDICATORS に記載されている外国の地点略号のうち気象資料に用いられている地点略号。 	<p>I 地点略号 業務の参考のために下記により地点略号を収載した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 航空路誌 (AIP 国土交通省航空局発行) に記載されている日本の全地点略号。 2. 海上自衛隊, 在日米軍の地点略号のうち気象資料の放送に用いられている地点略号。 3. 国際民間航空機関 (ICAO) 発行の LOCATION INDICATORS に記載されている外国の地点略号のうち気象資料に用いられている地点略号。 	
<p>II 航空気象通報式 (場内型式) この型式は, WMO 技術規則第 II 卷, 規則 4. 14. 1 により関係する航空交通業務機関, 運航責任者及びその他の航空関係の利用者と協定した型式を定めたものである。 なお, これは飛行場内の運航関係者等に当該飛行場の観測資料を空港気象常時監視通報装置又は文字により送達する場合に用いる。</p>	<p>II 航空気象通報式 (場内型式) この型式は, WMO 技術規則第 II 卷, 規則 4. 14. 1 により関係する航空交通業務機関, 運航責任者及びその他の航空関係の利用者と協定した型式を定めたものである。 なお, これは飛行場内の運航関係者等に当該飛行場の観測資料を空港気象常時監視通報装置又は文字により送達する場合に用いる。</p>	
<p>III 航空気象通報式 (口頭型式) 航空観測気象報を口頭により読み上げる場合の例を収載したものである。</p>	<p>III 航空気象通報式 (口頭型式) 航空観測気象報を口頭により読み上げる場合の例を収載したものである。</p>	
<p>I. 地点略号 (略)</p>	<p>I. 地点略号 (略)</p>	
<p>II. 航空気象通報式 (場内型式)</p>	<p>II. 航空気象通報式 (場内型式)</p>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)	改正後 (改正第 16 号)	備考
<p>M S MS YYGGggZ (AUTO) dddffGf_mf_m/f_Lf_LKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x VVVV (識別符) (観測日時) (自動観測の指示符) (平均風向風速 G 最大瞬間風速 風向変動) (卓越視程) /最小瞬間風速 KT)</p> <p>RD_rD_r/V_rV_rV_rV_ri w'w' { N_sN_sN_sh_sh_sh_sCC 又は VVh_sh_sh_s T'T'/T'_dT'_d 又は SKC (滑走路視距離値) (現在天気) (雲) (気温/露点温度)</p> <p>QP_hP_hP_hP_h/AP'_hP'_hP'_hP'_h { WS RD_rD_r RMK 記事 又は WS ALL RWY (Q ヘクトパスカル/A インチ) (過去天気) (ウインドシアア情報)</p>	<p>M S MS YYGGggZ (AUTO) dddffGf_mf_m/f_Lf_LKT d_nd_nd_nVd_xd_xd_x VVVV (識別符) (観測日時) (自動観測の識別語) (平均風向風速 G 最大瞬間風速 風向変動) (卓越視程) /最小瞬間風速 KT)</p> <p>RD_rD_r/V_rV_rV_rV_ri w'w' { N_sN_sN_sh_sh_sh_sCC 又は VVh_sh_sh_s T'T'/T'_dT'_d 又は SKC 又は NCD (滑走路視距離値) (現在天気) (雲) (気温/露点温度)</p> <p>QP_hP_hP_hP_h/AP'_hP'_hP'_hP'_h { WS RD_rD_r RMK 記事 又は WS ALL RWY (Q ヘクトパスカル/A インチ) (ウインドシアア情報)</p>	<p>・誤記修正</p> <p>・誤記修正 (削除)</p>
<p>【場内通報例】</p>	<p>【場内通報例】</p>	
<p>1. M 120600Z 28015KT 4000M -SHRA BR SCT030CU 05/01 Q1006/A2971 WS R34=</p>	<p>1. M 120600Z 28015KT 4000M -SHRA BR SCT030CU 05/01 Q1006/A2971 WS R34= <u>(上記の自動観測)</u> <u>M 120600Z AUTO 28015KT 4000M -RA BR SCT030// 05/01 Q1006/A2971 WS R34=</u></p>	<p>・自動化に伴う通報例追加 (以下同じ)</p>
<p>2. COR M 130600Z 28028G43/18KT 0800M R32/0800U E/0800 +SHRA SCT006ST <u>DIF</u> BKN030CB OVC120AC M02/M09 Q1006/A2971 <u>RETS</u> WS R32 RMK 2000N CB OHD MOV E P/RR=</p>	<p>2. M 130600Z 28028G43/18KT 0800M R32/0800U E/0800 +SHRA SCT006ST BKN030CB OVC120AC M02/M09 Q1006/A2971 WS R32 RMK 2000N CB OHD MOV E P/RR= <u>(上記の自動観測)</u> <u>M 130600Z AUTO 28028G43/18KT 0800M R32/0800U E/0800 +RA SCT006// BKN030// OVC120// /////CB M02/M09 Q1006/A2971 WS R32 RMK RI025 CB OHD MOV E P/RR=</u></p> <p><u>(TS・CB 情報を通報できないとき)</u> <u>M 130600Z AUTO 28028G43/18KT 0800M R32/0800U E/0800 +RA SCT006// BKN030// OVC120// M02/M09 Q1006/A2971 WS R32 RMK RI025 TSCENO P/RR=</u></p>	<p>・DIF (雲底の変動) の廃止 ・誤記訂正 (削除)</p>
<p>3. MS 220300Z VRB03KT 4800M BR BKN020CU 15/14 Q1015/A2997 RMK FG BANK 15KM S=</p>	<p>3. MS 220300Z VRB03KT 4800M BR BKN020CU 15/14 Q1015/A2997 RMK FG BANK 15KM S= <u>(上記の自動観測)</u> <u>MS 220300Z AUTO VRB03KT 4800M BR BKN020// 15/14 Q1015/A2997=</u></p>	
<p>4. S 031041Z 03010KT 360V060 15KM SCT030CU BKN120AS OVC/// 20/13 Q1005/A2968=</p>	<p>4. S 031041Z 03010KT 360V060 15KM SCT030CU BKN120AS OVC/// 20/13 Q1005/A2968= <u>(上記の自動観測)</u> <u>S 031041Z AUTO 03010KT 360V060 9999 SCT030// BKN120// OVC200// 20/13 Q1005/A2968=</u></p>	

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)		改正後 (改正第 16 号)		備考																																																																																																										
5. M 31000Z 0000KT 30KM SCT030SC M02/M09 Q1006/A2971=		5. M 31000Z 0000KT 30KM SCT030SC M02/M09 Q1006/A2971= <u>(上記の自動観測)</u> M 31000Z AUTO 0000KT 9999 SCT030// M02/M09 Q1006/A2971=																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>場内型式例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 識別符</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M <u>(METAR : 定時観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S <u>(SPECI : 特別観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>MS <u>(METAR SPECI : 定時特別観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q <u>(REQUEST : 照会特別観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>A <u>(ACCIDENT : 事故特別観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 地点略号 省略する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 観測日時 6 桁の UTC で報じ、指示符 Z を付す。</td> <td>M 120600Z, M 220030Z, S 030115Z</td> </tr> <tr> <td>4. 訂正報 「COR」を冒頭に付す。</td> <td>COR M 120600Z</td> </tr> <tr> <td>5. 自動観測の指示符 完全な自動観測による観測報の場合に報ずる。</td> <td>AUTO</td> </tr> <tr> <td>6. 風向・風速</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 風向は 3 桁の磁気方位により、MAG 等の記号は省略する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) 観測時刻前 10 分間の平均風速を 2 桁で報じ、KT を付す。</td> <td>28015KT</td> </tr> <tr> <td>(3) 風向は 100 度未満の場合は、0 を前置する。</td> <td>080, 010</td> </tr> <tr> <td>(4) 風速が 10 ノット未満の場合は、0 を前置する。</td> <td>05KT, 09KT</td> </tr> <tr> <td>(5) 風速が 100 ノット以上の場合、3 桁で報ずる。</td> <td>105KT</td> </tr> <tr> <td>(6) 静穏 (1 ノット未満) の場合</td> <td>00000KT</td> </tr> <tr> <td>(7) 10 分間の変動幅が 60 度以上で、平均風速が 3 ノット未満の場合</td> <td>VRB02KT</td> </tr> <tr> <td>(8) 10 分間の変動幅が 60 度以上 180 度未満で、平均風速が 3 ノット以上の場合、平均風向風速に続き風向変動を報ずる。</td> <td>03010KT 360V060</td> </tr> <tr> <td>(9) 10 分間の変動幅が 180 度以上で、平均風速が 3 ノット以上の場合</td> <td>VRB18KT</td> </tr> <tr> <td>(10) 最大瞬間風速及び最小瞬間風速を報ずる場合</td> <td>21028G48/18KT</td> </tr> <tr> <td>(11) 目視により風向・風速を観測した場合 (記事)</td> <td>06015KT (WIND EST)</td> </tr> <tr> <td>(12) 代表以外の測器による場合 (記事) <u>(新規)</u></td> <td>06015KT (WIND BY EQPT/16)</td> </tr> <tr> <td>7. <u>卓越視程</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 10KM 以上の場合、<u>観測値をそのまま報ずる。</u></td> <td>15KM, 30KM</td> </tr> </tbody> </table>		事項	場内型式例	1. 識別符		M <u>(METAR : 定時観測気象報)</u>		S <u>(SPECI : 特別観測気象報)</u>		MS <u>(METAR SPECI : 定時特別観測気象報)</u>		Q <u>(REQUEST : 照会特別観測気象報)</u>		A <u>(ACCIDENT : 事故特別観測気象報)</u>		2. 地点略号 省略する。		3. 観測日時 6 桁の UTC で報じ、指示符 Z を付す。	M 120600Z, M 220030Z, S 030115Z	4. 訂正報 「COR」を冒頭に付す。	COR M 120600Z	5. 自動観測の指示符 完全な自動観測による観測報の場合に報ずる。	AUTO	6. 風向・風速		(1) 風向は 3 桁の磁気方位により、MAG 等の記号は省略する。		(2) 観測時刻前 10 分間の平均風速を 2 桁で報じ、KT を付す。	28015KT	(3) 風向は 100 度未満の場合は、0 を前置する。	080, 010	(4) 風速が 10 ノット未満の場合は、0 を前置する。	05KT, 09KT	(5) 風速が 100 ノット以上の場合、3 桁で報ずる。	105KT	(6) 静穏 (1 ノット未満) の場合	00000KT	(7) 10 分間の変動幅が 60 度以上で、平均風速が 3 ノット未満の場合	VRB02KT	(8) 10 分間の変動幅が 60 度以上 180 度未満で、平均風速が 3 ノット以上の場合、平均風向風速に続き風向変動を報ずる。	03010KT 360V060	(9) 10 分間の変動幅が 180 度以上で、平均風速が 3 ノット以上の場合	VRB18KT	(10) 最大瞬間風速及び最小瞬間風速を報ずる場合	21028G48/18KT	(11) 目視により風向・風速を観測した場合 (記事)	06015KT (WIND EST)	(12) 代表以外の測器による場合 (記事) <u>(新規)</u>	06015KT (WIND BY EQPT/16)	7. <u>卓越視程</u>		(1) 10KM 以上の場合、 <u>観測値をそのまま報ずる。</u>	15KM, 30KM	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>場内型式例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 識別符</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M <u>(定時観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S <u>(特別観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>MS <u>(定時特別観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q <u>(照会特別観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>A <u>(事故特別観測気象報)</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 地点略号 省略する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 観測日時 6 桁の UTC で報じ、指示符 Z を付す。</td> <td>M 120600Z, M 220030Z, S 030115Z</td> </tr> <tr> <td>4. 訂正報 「COR」を冒頭に付す。</td> <td>COR M 120600Z</td> </tr> <tr> <td>5. 自動観測の識別語 完全な自動観測による観測報の場合 <u>(通常は完全な自動観測であるが、何らかの理由により人手を介した観測となった場合を含む)</u> に報ずる。</td> <td>AUTO</td> </tr> <tr> <td>6. 風向・風速</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 風向は 3 桁の磁気方位により、MAG 等の記号は省略する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) 観測時刻前 10 分間の平均風速を 2 桁で報じ、KT を付す。</td> <td>28015KT</td> </tr> <tr> <td>(3) 風向は 100 度未満の場合は、0 を前置する。</td> <td>080, 010</td> </tr> <tr> <td>(4) 風速が 10 ノット未満の場合は、0 を前置する。</td> <td>05KT, 09KT</td> </tr> <tr> <td>(5) 風速が 100 ノット以上の場合、3 桁で報ずる。</td> <td>105KT</td> </tr> <tr> <td>(6) 静穏の場合</td> <td>00000KT</td> </tr> <tr> <td>(7) 10 分間の変動幅が 60 度以上で、平均風速が 3 ノット未満の場合</td> <td>VRB02KT</td> </tr> <tr> <td>(8) 10 分間の変動幅が 60 度以上 180 度未満で、平均風速が 3 ノット以上の場合、平均風向風速に続き風向変動を報ずる。</td> <td>03010KT 360V060</td> </tr> <tr> <td>(9) 10 分間の変動幅が 180 度以上で、平均風速が 3 ノット以上の場合</td> <td>VRB18KT</td> </tr> <tr> <td>(10) 最大瞬間風速及び最小瞬間風速を報ずる場合</td> <td>21028G48/18KT</td> </tr> <tr> <td>(11) 目視により風向・風速を観測した場合 (記事)</td> <td>06015KT (WIND EST)</td> </tr> <tr> <td>(12) 代表以外の測器による場合 (記事)</td> <td>06015KT (WIND BY EQPT/16)</td> </tr> <tr> <td>(13) <u>欠測の場合</u></td> <td>//////KT</td> </tr> <tr> <td>7. <u>視程</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 10KM 以上の場合、<u>5KM 刻みの卓越視程を報ずる。ただし、自動観測の場合は 1 分間平均値を報じ (以下同じ。)、10KM 以上の場合「9999」と報ずる。</u></td> <td>15KM, 30KM <u>9999</u></td> </tr> </tbody> </table>		事項	場内型式例	1. 識別符		M <u>(定時観測気象報)</u>		S <u>(特別観測気象報)</u>		MS <u>(定時特別観測気象報)</u>		Q <u>(照会特別観測気象報)</u>		A <u>(事故特別観測気象報)</u>		2. 地点略号 省略する。		3. 観測日時 6 桁の UTC で報じ、指示符 Z を付す。	M 120600Z, M 220030Z, S 030115Z	4. 訂正報 「COR」を冒頭に付す。	COR M 120600Z	5. 自動観測の識別語 完全な自動観測による観測報の場合 <u>(通常は完全な自動観測であるが、何らかの理由により人手を介した観測となった場合を含む)</u> に報ずる。	AUTO	6. 風向・風速		(1) 風向は 3 桁の磁気方位により、MAG 等の記号は省略する。		(2) 観測時刻前 10 分間の平均風速を 2 桁で報じ、KT を付す。	28015KT	(3) 風向は 100 度未満の場合は、0 を前置する。	080, 010	(4) 風速が 10 ノット未満の場合は、0 を前置する。	05KT, 09KT	(5) 風速が 100 ノット以上の場合、3 桁で報ずる。	105KT	(6) 静穏の場合	00000KT	(7) 10 分間の変動幅が 60 度以上で、平均風速が 3 ノット未満の場合	VRB02KT	(8) 10 分間の変動幅が 60 度以上 180 度未満で、平均風速が 3 ノット以上の場合、平均風向風速に続き風向変動を報ずる。	03010KT 360V060	(9) 10 分間の変動幅が 180 度以上で、平均風速が 3 ノット以上の場合	VRB18KT	(10) 最大瞬間風速及び最小瞬間風速を報ずる場合	21028G48/18KT	(11) 目視により風向・風速を観測した場合 (記事)	06015KT (WIND EST)	(12) 代表以外の測器による場合 (記事)	06015KT (WIND BY EQPT/16)	(13) <u>欠測の場合</u>	//////KT	7. <u>視程</u>		(1) 10KM 以上の場合、 <u>5KM 刻みの卓越視程を報ずる。ただし、自動観測の場合は 1 分間平均値を報じ (以下同じ。)、10KM 以上の場合「9999」と報ずる。</u>	15KM, 30KM <u>9999</u>	<p>・表現の見直し</p> <p>・誤記修正</p> <p>・自動化関連</p> <p>・表現の見直し (削除)</p> <p>・自動化を契機に欠測表現を規定</p> <p>・自動化関連 (表現修正)</p> <p>・自動化関連</p>
事項	場内型式例																																																																																																													
1. 識別符																																																																																																														
M <u>(METAR : 定時観測気象報)</u>																																																																																																														
S <u>(SPECI : 特別観測気象報)</u>																																																																																																														
MS <u>(METAR SPECI : 定時特別観測気象報)</u>																																																																																																														
Q <u>(REQUEST : 照会特別観測気象報)</u>																																																																																																														
A <u>(ACCIDENT : 事故特別観測気象報)</u>																																																																																																														
2. 地点略号 省略する。																																																																																																														
3. 観測日時 6 桁の UTC で報じ、指示符 Z を付す。	M 120600Z, M 220030Z, S 030115Z																																																																																																													
4. 訂正報 「COR」を冒頭に付す。	COR M 120600Z																																																																																																													
5. 自動観測の指示符 完全な自動観測による観測報の場合に報ずる。	AUTO																																																																																																													
6. 風向・風速																																																																																																														
(1) 風向は 3 桁の磁気方位により、MAG 等の記号は省略する。																																																																																																														
(2) 観測時刻前 10 分間の平均風速を 2 桁で報じ、KT を付す。	28015KT																																																																																																													
(3) 風向は 100 度未満の場合は、0 を前置する。	080, 010																																																																																																													
(4) 風速が 10 ノット未満の場合は、0 を前置する。	05KT, 09KT																																																																																																													
(5) 風速が 100 ノット以上の場合、3 桁で報ずる。	105KT																																																																																																													
(6) 静穏 (1 ノット未満) の場合	00000KT																																																																																																													
(7) 10 分間の変動幅が 60 度以上で、平均風速が 3 ノット未満の場合	VRB02KT																																																																																																													
(8) 10 分間の変動幅が 60 度以上 180 度未満で、平均風速が 3 ノット以上の場合、平均風向風速に続き風向変動を報ずる。	03010KT 360V060																																																																																																													
(9) 10 分間の変動幅が 180 度以上で、平均風速が 3 ノット以上の場合	VRB18KT																																																																																																													
(10) 最大瞬間風速及び最小瞬間風速を報ずる場合	21028G48/18KT																																																																																																													
(11) 目視により風向・風速を観測した場合 (記事)	06015KT (WIND EST)																																																																																																													
(12) 代表以外の測器による場合 (記事) <u>(新規)</u>	06015KT (WIND BY EQPT/16)																																																																																																													
7. <u>卓越視程</u>																																																																																																														
(1) 10KM 以上の場合、 <u>観測値をそのまま報ずる。</u>	15KM, 30KM																																																																																																													
事項	場内型式例																																																																																																													
1. 識別符																																																																																																														
M <u>(定時観測気象報)</u>																																																																																																														
S <u>(特別観測気象報)</u>																																																																																																														
MS <u>(定時特別観測気象報)</u>																																																																																																														
Q <u>(照会特別観測気象報)</u>																																																																																																														
A <u>(事故特別観測気象報)</u>																																																																																																														
2. 地点略号 省略する。																																																																																																														
3. 観測日時 6 桁の UTC で報じ、指示符 Z を付す。	M 120600Z, M 220030Z, S 030115Z																																																																																																													
4. 訂正報 「COR」を冒頭に付す。	COR M 120600Z																																																																																																													
5. 自動観測の識別語 完全な自動観測による観測報の場合 <u>(通常は完全な自動観測であるが、何らかの理由により人手を介した観測となった場合を含む)</u> に報ずる。	AUTO																																																																																																													
6. 風向・風速																																																																																																														
(1) 風向は 3 桁の磁気方位により、MAG 等の記号は省略する。																																																																																																														
(2) 観測時刻前 10 分間の平均風速を 2 桁で報じ、KT を付す。	28015KT																																																																																																													
(3) 風向は 100 度未満の場合は、0 を前置する。	080, 010																																																																																																													
(4) 風速が 10 ノット未満の場合は、0 を前置する。	05KT, 09KT																																																																																																													
(5) 風速が 100 ノット以上の場合、3 桁で報ずる。	105KT																																																																																																													
(6) 静穏の場合	00000KT																																																																																																													
(7) 10 分間の変動幅が 60 度以上で、平均風速が 3 ノット未満の場合	VRB02KT																																																																																																													
(8) 10 分間の変動幅が 60 度以上 180 度未満で、平均風速が 3 ノット以上の場合、平均風向風速に続き風向変動を報ずる。	03010KT 360V060																																																																																																													
(9) 10 分間の変動幅が 180 度以上で、平均風速が 3 ノット以上の場合	VRB18KT																																																																																																													
(10) 最大瞬間風速及び最小瞬間風速を報ずる場合	21028G48/18KT																																																																																																													
(11) 目視により風向・風速を観測した場合 (記事)	06015KT (WIND EST)																																																																																																													
(12) 代表以外の測器による場合 (記事)	06015KT (WIND BY EQPT/16)																																																																																																													
(13) <u>欠測の場合</u>	//////KT																																																																																																													
7. <u>視程</u>																																																																																																														
(1) 10KM 以上の場合、 <u>5KM 刻みの卓越視程を報ずる。ただし、自動観測の場合は 1 分間平均値を報じ (以下同じ。)、10KM 以上の場合「9999」と報ずる。</u>	15KM, 30KM <u>9999</u>																																																																																																													

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)		改正後 (改正第 16 号)		備考
(2) 5KM を超える場合は、キロメートル単位で報ずる。 (3) 5KM 以下の場合は、4 桁のメートル単位で報ずる。 (4) 100M 未満の場合 (5) 5KM 以下で変動がある場合 <u>(新規)</u>	7KM, 9KM 0800M, 4800M, 5000M 0000M VRB0800M	(2) 5KM を超える場合は、キロメートル単位で報ずる。 (3) 5KM 以下の場合は、4 桁のメートル単位で報ずる。 (4) 100M 未満の場合 (5) 5KM 以下で変動がある場合 <u>(6) 欠測の場合</u>	7KM, 9KM 0800M, 4800M, 5000M 0000M VRB0800M ////	・自動化を契機に欠測表現を規定
8. 滑走路視距離 (RVR) (1) RVR は、10 分間平均値を報ずる。 (P : ABOVE, M : BELOW) (2) RVR の変化傾向 (10 分間の前 5 分と後 5 分の平均値を比べて、その差が 100M 以上ある場合) を報ずる。 (U : Upward, D : Downward, N : No Change) (3) 滑走路が 1 本 イ) センサーが 1 か所の場合 ロ) センサーが 2 か所の場合 } (M / : MIDPOINT ハ) センサーが 3 か所の場合 } E / : STOPEND) (4) 滑走路が 2 本以上 イ) センサーが 2 か所の場合 ロ) センサーが 3 か所の場合 (5) 観測を行うべき時に、観測値が得られない場合	R16/0800, R16/P1800, R16/M0300 R16/0800U, R16/0800D, R16/0800N R32/0800N R32/0800N M/0800N (又は E/0800N) R32/0800N M0900N E/0800N R32/0800D E/M0300D R16/1200U E/P1800 R32/0800N M/0800N E/0800N R22/0800N M/0800N E/0800N R32/////	8. 滑走路視距離 (RVR) (1) RVR は、10 分間平均値を報ずる。 (P : ABOVE, M : BELOW) (2) RVR の変化傾向 (10 分間の前 5 分と後 5 分の平均値を比べて、その差が 100M 以上ある場合) を報ずる。 (U : Upward, D : Downward, N : No Change) (3) 滑走路が 1 本 イ) センサーが 1 か所の場合 ロ) センサーが 2 か所の場合 } (M / : MIDPOINT ハ) センサーが 3 か所の場合 } E / : STOPEND) (4) 滑走路が 2 本以上 イ) センサーが 2 か所の場合 ロ) センサーが 3 か所の場合 (5) 観測を行うべき時に、観測値が得られない場合	R16/0375, R16/P2000, R16/M0050 R16/0800U, R16/0800D, R16/0800N R32/0800N R32/0800N M/0800N (又は E/0800N) R32/0800N M0900N E/0800N R32/0800D E/M0300D R16/1200U E/P1800 R32/0800N M/0800N E/0800N R22/0800N M/0800N E/0800N R32/////	・機器更新関連
9. 現在天気 天気略語表による (3 群まで報ずる)。	-SHRA BR VCFG	9. 現在天気 <u>天気略語表 1</u> による (3 群まで報ずる)。 <u>ただし、自動観測の場合は天気略語表 2 による。</u>	-SHRA BR VCFG	・自動化関連
10. 雲 (1) 雲量 イ) FEW (1~2 オクタス) ロ) SCT (3~4 オクタス) ハ) BKN (5~7 オクタス) ニ) OVC (8 オクタス) (2) 雲高 イ) 3 桁の数字で 100 フィート単位で報ずる。 ロ) 雲高が不明、又は観測できない場合 (3) 雲形を付して報ずる (中・下層雲のみ)。	SCT030 SCT/// SCT006ST, BKN120AC, BKN///AS	10. 雲 (1) 雲量 イ) FEW (1~2 オクタス) ロ) SCT (3~4 オクタス) ハ) BKN (5~7 オクタス) ニ) OVC (8 オクタス) (2) 雲高 イ) 3 桁の数字で 100 フィート単位で報ずる。 ロ) 雲高が不明、又は観測できない場合 (3) 雲形を付して報ずる (中・下層雲のみ)。 <u>ただし、自動観測の場合は CB 及び TCU を除き雲形は // と報じ、CB 又は TCU は雲量及び雲高はそれぞれ // と報ずる。</u>	SCT030 SCT/// SCT006ST, BKN120AC, BKN///AS <u>SCT006//, BKN120//, BKN200//</u> <u>//////CB, //////TCU</u>	・自動化関連
(4) 鉛直視程は、3 桁の数字で 100 フィート単位で報ずる。 (5) 特殊な形状の雲 (CB, TCU 及び VIRGA) の位置及び移動方向は記事で報ずる。 (6) CAVOK は報じない。 (7) 雲がない場合	VV003 SKC	(4) 鉛直視程は、3 桁の数字で 100 フィート単位で報ずる。 <u>ただし、自動観測の場合は、鉛直視程を報じない。</u> (5) 特殊な形状の雲 (CB, TCU 及び VIRGA) の位置及び移動方向は記事で報ずる。 <u>ただし、自動観測の場合は重要な対流雲 (CB, TCU) の位置及び移動方向に限る。</u> (6) CAVOK は報じない。 (7) 雲がない場合 <u>ただし、自動観測において、雲が検知されない場合は、略語 NCD (no cloud detected) を用いる。</u> <u>(削除)</u>	VV003 SKC NCD	・自動化関連 ・自動化関連 ・自動化関連
<u>(8) 雲底の変動を報ずる場合</u> DIF (diffuse) : ぼんやりしている。	SCT006ST DIF BKN030CU			・廃止 (削除)

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)		改正後 (改正第 16 号)		備考
<p><u>RAG (ragged) : ほつれている。</u></p> <p><u>FLUC (fluctuating) : 急速に変動している。</u></p> <p>11. 気温・露点温度 (1) -9~+9℃の場合は, 0 を前置する。 (2) 0℃又は-0℃の場合 <u>(新規)</u></p> <p>12. 高度計規正值 (QNH) (1) Q の次にヘクトパスカル値/A の次にインチ値を報ずる。 (2) 気圧が観測時刻前 30 分間に 1hPa を超える変化があった場合は, 記事に次の略語を付加する。 P/RR (Pressure Rising Rapidly) P/FR (Pressure Falling Rapidly) <u>(新規)</u></p> <p>13. ウィンドシア一情報 最大5群まで報ずる。全滑走路に影響する場合はWS ALL RWYとする。</p> <p>14. 記事 指示符 RMK に続けて, 次の事項を報ずる。 <u>(新規)</u></p> <p><u>(1) 方向視程</u> <u>(2) 航空機から報告された現象</u></p> <p><u>(3) 目視又は代表以外の風</u> <u>(4) 視界内の現象</u> <u>(5) 気圧の上昇又は下降</u> <u>(6) その他, 運航に大きな影響がある現象</u></p> <p><u>(7) 降雨強度の情報</u> <u>(8) あられの種類</u> <u>(新規)</u></p> <p>15. その他の留意事項 英数小文字は使用しない。</p>	<p>05/01, 02/M09, M02/M09 00 又は M00</p> <p>Q1006/A2971</p> <p>WS R34L, WS R01, WS ALL RWY</p> <p>0900N, 0900N-NE MOD TO SEV TURB 5000FT 10KM S RJTT B767 WIND EST 又は WIND BY EQPT/16 FG BANK SW P/RR, P/FR CB 10KM S MOV SE, VIRGA N</p> <p>RI++ SNOW PELETS 又は SMALL HAIL</p>	<p><u>(8) 欠測の場合</u></p> <p>11. 気温・露点温度 (1) -9~+9℃の場合は, 0 を前置する。 (2) 0℃又は-0℃の場合 <u>(3) 欠測の場合</u></p> <p>12. 高度計規正值 (QNH) (1) Q の次にヘクトパスカル値/A の次にインチ値を報ずる。 (2) 気圧が観測時刻前 30 分間に 1hPa を超える変化があった場合は, 記事に次の略語を付加する。 P/RR (Pressure Rising Rapidly) P/FR (Pressure Falling Rapidly) <u>(3) 欠測の場合</u></p> <p>13. ウィンドシア一情報 最大5群まで報ずる。全滑走路に影響する場合はWS ALL RWYとする。</p> <p>14. 記事 指示符 RMK に続けて, 次の事項を報ずる。 <u>(1) 降雨強度 (自動観測の場合のみ)</u> <u>(2) 方向視程 (自動観測の場合を除く)</u> <u>(3) 航空機から報告された現象</u></p> <p><u>(4) 目視又は代表以外の風</u> <u>(5) 視界内の現象 (自動観測の場合を除く)</u> <u>(6) 気圧の上昇又は下降</u> <u>(7) その他, 運航に大きな影響がある現象 (自動観測の場合, 雷電 (TS), 積乱雲 (CB) 及び塔状積雲 (TCU) に限る)</u> <u>(8) 降雨強度の情報 (自動観測の場合を除く)</u> <u>(9) あられの種類 (自動観測の場合を除く)</u> <u>(10) 雷電, 積乱雲及び塔状積雲が通報できない, または雷電が通報できない旨の情報 (自動観測の場合のみ)</u></p> <p>15. その他の留意事項 英数小文字は使用しない。</p>	<p>/////</p> <p>05/01, 02/M09, M02/M09 00 又は M00 ///01, 02///, /////</p> <p>Q1006/A2971</p> <p>Q////</p> <p>WS R34L, WS R01, WS ALL RWY</p> <p>RI003, RI025 0900N, 0900N-NE MOD TO SEV TURB 5000FT 10KM S RJTT B767 WIND EST 又は WIND BY EQPT/16 FG BANK SW P/RR, P/FR CB 10KM S MOV SE, VIRGA N</p> <p>RI++ SNOW PELETS 又は SMALL HAIL TSCBNO, TSNO</p>	<p>・自動化を契機に欠測表現を規定</p> <p>・自動化を契機に欠測表現を規定</p> <p>・自動化を契機に欠測表現を規定</p> <p>・自動化関連 ・自動化関連</p> <p>・自動化関連 ・自動化関連 ・自動化関連</p> <p>・自動化関連 ・自動化関連 ・自動化関連</p>

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)		改正後 (改正第 16 号)		備考
III. 航空気象通報式 (口頭型式)		III. 航空気象通報式 (口頭型式)		
通報型式例	口頭型式例	通報型式例	口頭型式例	
<p>1. 識別語</p> <p>(1) COR</p> <p>(2) AMD</p> <p>(3) AUTO</p> <p>(4) NIL</p>	<p>1. INDICATORS</p> <p>(1) CORRECTION</p> <p>(2) AMENDMENT</p> <p>(3) AUTOMATED OBSERVATION</p> <p>(4) NIL</p>	<p>1. 識別語</p> <p>(1) COR</p> <p>(2) AMD</p> <p>(3) AUTO</p> <p>(4) NIL</p>	<p>1. INDICATORS</p> <p>(1) CORRECTION</p> <p>(2) AMENDMENT</p> <p>(3) AUTOMATED OBSERVATION</p> <p>(4) NIL</p>	
<p>2. 風向・風速</p> <p>(1) 28015KT</p> <p>(2) 08006KT</p> <p>(3) 00000KT</p> <p>(4) VRB03KT</p> <p>(5) 360V060</p> <p>(6) 20028G43/18KT</p> <p style="text-align: right;"><u>(新規)</u></p>	<p>2. WIND (Direction Velocity)</p> <p>(1) WIND TWO EIGHT ZERO DEGREES ONE FIVE KNOTS</p> <p>(2) WIND ZERO EIGHT ZERO DEGREES SIX KNOTS</p> <p>(3) WIND CALM</p> <p>(4) <u>WIND</u> VARIABLE THREE KNOTS</p> <p>(5) (WIND) DIRECTION VARIABLE BETWEEN THREE SIX ZERO AND ZERO SIX ZERO DEGREES</p> <p>(6) WIND TWO ZERO ZERO DEGREES TWO EIGHT KNOTS MAXIMUM FOUR THREE KNOTS MINIMUM ONE EIGHT KNOTS</p>	<p>2. 風向・風速</p> <p>(1) 28015KT</p> <p>(2) 08006KT</p> <p>(3) 00000KT</p> <p>(4) VRB03KT</p> <p>(5) 360V060</p> <p>(6) 20028G43/18KT</p> <p style="text-align: right;"><u>(7) ////KT</u></p>	<p>2. WIND (Direction Velocity)</p> <p>(1) WIND TWO EIGHT ZERO DEGREES ONE FIVE KNOTS</p> <p>(2) WIND ZERO EIGHT ZERO DEGREES SIX KNOTS</p> <p>(3) WIND CALM</p> <p>(4) <u>WIND</u> VARIABLE THREE KNOTS</p> <p>(5) (WIND) DIRECTION VARIABLE BETWEEN THREE SIX ZERO AND ZERO SIX ZERO DEGREES</p> <p>(6) WIND TWO ZERO ZERO DEGREES TWO EIGHT KNOTS MAXIMUM FOUR THREE KNOTS MINIMUM ONE EIGHT KNOTS</p> <p style="text-align: right;"><u>(7) WIND NOT AVAILABLE</u></p>	<p>・誤記修正</p> <p>・自動化を契機に欠測表現を規定</p>
<p>3. CAVOK (場外のみ)</p>	<p>3. KAV-OH-KAY</p>	<p>3. CAVOK (場外のみ)</p>	<p>3. KAV-OH-KAY</p>	
<p>4. <u>卓越</u>視程</p> <p>(1) 500M</p> <p>(2) 450M</p> <p>(3) 15KM</p> <p>(4) VRB0800M</p> <p>(5) 9999 (<u>場外のみ</u>)</p> <p>(6) 0000M</p> <p style="text-align: right;"><u>(新規)</u></p>	<p>4. VISIBILITY (Prevailing Visibility)</p> <p>(1) VISIBILITY FIVE THOUSAND METERS</p> <p>(2) VISIBILITY FOUR THOUSAND FIVE HUNDRED METERS</p> <p>(3) VISIBILITY ONE FIVE KILOMETERS</p> <p>(4) VISIBILITY VARIABLE EIGHT HUNDRED METERS</p> <p>(5) VISIBILITY ONE ZERO KILOMETERS</p> <p>(6) VISIBILITY BELOW ONE HUNDRED METERS</p>	<p>4. 視程</p> <p>(1) 500M</p> <p>(2) 450M</p> <p>(3) 15KM</p> <p>(4) VRB0800M</p> <p>(5) 9999</p> <p>(6) 0000M</p> <p style="text-align: right;"><u>(7) ////</u></p>	<p>4. VISIBILITY (Prevailing Visibility)</p> <p>(1) VISIBILITY FIVE THOUSAND METERS</p> <p>(2) VISIBILITY FOUR THOUSAND FIVE HUNDRED METERS</p> <p>(3) VISIBILITY ONE FIVE KILOMETERS</p> <p>(4) VISIBILITY VARIABLE EIGHT HUNDRED METERS</p> <p>(5) VISIBILITY ONE ZERO KILOMETERS</p> <p>(6) VISIBILITY BELOW ONE HUNDRED METERS</p> <p style="text-align: right;"><u>(7) VISIBILITY NOT AVAILABLE</u></p>	<p>・自動化を契機に欠測表現を規定</p>
<p>5. 滑走路視距離 (RVR)</p> <p>(1) R09/0800</p> <p>(2) R09/<u>P1800</u></p> <p>(3) <u>R09/M0300</u></p> <p>(4) R09/1200 R22/1400</p> <p>(5) R09/0800 M/0800 E/0600</p> <p>(6) R09/0800V1200 (場外のみ)</p>	<p>5. RVR</p> <p>(1) RUNWAY ZERO NINE RVR EIGHT HUNDRED METERS</p> <p>(2) RUNWAY ZERO NINE RVR <u>ABOVE ONE THOUSAND EIGHT HUNDRED METERS</u></p> <p>(3) RUNWAY ZERO NINE RVR BELOW <u>THREE HUNDRED METERS</u></p> <p>(4) RUNWAY ZERO NINE RVR ONE THOUSAND TWO HUNDRED METERS RUNWAY TWO TWO RVR ONE THOUSAND FOUR HUNDRED METERS</p> <p>(5) RUNWAY ZERO NINE RVR TOUCHDOWN EIGHT HUNDRED METERS MIDPOINT EIGHT HUNDRED METERS STOPEND SIX HUNDRED METERS</p> <p>(6) RUNWAY ZERO NINE RVR VARIABLE BETWEEN EIGHT HUNDRED METERS AND ONE THOUSAND TWO HUNDRED METERS</p>	<p>5. 滑走路視距離 (RVR)</p> <p>(1) R09/0800</p> <p>(2) R09/<u>P2000</u></p> <p>(3) R09/<u>M0050</u></p> <p>(4) R09/1200 R22/1400</p> <p>(5) R09/0800 M/0800 E/0600</p> <p>(6) R09/0800V1200 (場外のみ)</p>	<p>5. RVR</p> <p>(1) RUNWAY ZERO NINE RVR EIGHT HUNDRED METERS</p> <p>(2) RUNWAY ZERO NINE RVR ABOVE <u>TWO THOUSAND METERS</u></p> <p>(3) RUNWAY ZERO NINE RVR BELOW <u>FIVE ZERO METERS</u></p> <p>(4) RUNWAY ZERO NINE RVR ONE THOUSAND TWO HUNDRED METERS RUNWAY TWO TWO RVR ONE THOUSAND FOUR HUNDRED METERS</p> <p>(5) RUNWAY ZERO NINE RVR TOUCHDOWN EIGHT HUNDRED METERS MIDPOINT EIGHT HUNDRED METERS STOPEND SIX HUNDRED METERS</p> <p>(6) RUNWAY ZERO NINE RVR VARIABLE BETWEEN EIGHT HUNDRED METERS AND ONE THOUSAND TWO HUNDRED METERS</p>	<p>・機器更新関連</p> <p>・機器更新関連</p>

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)		改正後 (改正第 16 号)		備考
(7) R09/0800U (上昇の場合) R09/0800D (下降の場合) R09/0800N (変化がない場合)	(7) RUNWAY ZERO NINE RVR EIGHT HUNDRED METERS UPWARD RUNWAY ZERO NINE RVR EIGHT HUNDRED METERS DOWNWARD RUNWAY ZERO NINE RVR EIGHT HUNDRED METERS NO CHANGE	(7) R09/0800U (上昇の場合) R09/0800D (下降の場合) R09/0800N (変化がない場合)	(7) RUNWAY ZERO NINE RVR EIGHT HUNDRED METERS UPWARD RUNWAY ZERO NINE RVR EIGHT HUNDRED METERS DOWNWARD RUNWAY ZERO NINE RVR EIGHT HUNDRED METERS NO CHANGE	
(8) R09/////	(8) RUNWAY ZERO NINE RVR NOT AVAILABLE	(8) R09/////	(8) RUNWAY ZERO NINE RVR NOT AVAILABLE	
6. 現在天気 天気略語表による。	6. PRESENT WEATHER	6. 現在天気 天気略語表による。	6. PRESENT WEATHER	
(1) + (2) - (3) RASNGR (4) BLSN (5) FZFG (6) SHRASN (7) +TSRA (8) TSRASN (9) BCFG (10) VCFG (11) VCBSN (12) +FC	(1) HEAVY (2) LIGHT (3) RAIN SNOW AND HAIL (4) BLOWING SNOW (5) FREEZING FOG (6) SHOWER OF RAIN AND SNOW (7) THUNDERSTORM WITH HEAVY RAIN (8) THUNDERSTORM WITH RAIN AND SNOW (9) FOG PATCHES (10) FOG IN THE VICINITY (11) BLOWING SNOW IN THE VICINITY (12) WELL DEVELOPED FUNNEL CLOUD	(1) + (2) - (3) RASNGR (4) BLSN (5) FZFG (6) SHRASN (7) +TSRA (8) TSRASN (9) BCFG (10) VCFG (11) VCBSN (12) +FC <u>(13) UP</u> <u>(14) //</u>	(1) HEAVY (2) LIGHT (3) RAIN SNOW AND HAIL (4) BLOWING SNOW (5) FREEZING FOG (6) SHOWER OF RAIN AND SNOW (7) THUNDERSTORM WITH HEAVY RAIN (8) THUNDERSTORM WITH RAIN AND SNOW (9) FOG PATCHES (10) FOG IN THE VICINITY (11) BLOWING SNOW IN THE VICINITY (12) WELL DEVELOPED FUNNEL CLOUD <u>(13) UNIDENTIFIED PRECIPITATION</u> <u>(14) PRESENT WEATHER NOT AVAILABLE</u>	・自動化関連 ・自動化を契機に欠測表現を規定
7. 雲	7. CLOUD	7. 雲	7. CLOUD	
(1) FEW04ST (2) SCT06ST (3) BKN015CB (4) OVC120AC (5) SCT080// (6) SKC (7) TCU (8) SCT/// (9) OVC///AC (10) ///080AC (11) VV003 (12) VV000 (13) SCT006ST DIF	(1) FEW FOUR HUNDRED FEET STRATUS (2) SCATTERED SIX HUNDRED FEET STRATUS (3) BROKEN ONE THOUSAND FIVE HUNDRED FEET CUMULONIMBUS (4) OVERCAST ONE TWO THOUSAND FEET ALTOCUMULUS (5) SCATTERED EIGHT THOUSAND FEET CLOUD TYPE UNKNOWN (6) SKY CLEAR (7) TOWERING CUMULUS (8) SCATTERED HEIGHT UNKNOWN (9) OVERCAST HEIGHT UNKNOWN ALTOCUMULUS (10) CLOUD AMOUNT UNKNOWN EIGHT THOUSAND FEET ALTOCUMULUS (11) VERTICAL VISIBILITY THREE HUNDRED FEET (12) VERTICAL VISIBILITY BELOW ONE HUNDRED FEET (13) SCATTERED SIX HUNDRED FEET STRATUS DIFFUSE	(1) FEW04ST (2) SCT06ST (3) BKN015CB (4) OVC120AC (5) SCT080// (6) SKC (7) TCU (8) SCT/// (9) OVC///AC (10) ///080AC (11) VV003 (12) VV000 <u>(削除)</u> <u>(13) NCD</u> <u>(14) NSC (場外のみ)</u> <u>(15) /////CB</u> <u>(16) /////,////////,////////</u>	(1) FEW FOUR HUNDRED FEET STRATUS (2) SCATTERED SIX HUNDRED FEET STRATUS (3) BROKEN ONE THOUSAND FIVE HUNDRED FEET CUMULONIMBUS (4) OVERCAST ONE TWO THOUSAND FEET ALTOCUMULUS (5) SCATTERED EIGHT THOUSAND FEET CLOUD TYPE UNKNOWN (6) SKY CLEAR (7) TOWERING CUMULUS (8) SCATTERED HEIGHT UNKNOWN (9) OVERCAST HEIGHT UNKNOWN ALTOCUMULUS (10) CLOUD AMOUNT UNKNOWN EIGHT THOUSAND FEET ALTOCUMULUS (11) VERTICAL VISIBILITY THREE HUNDRED FEET (12) VERTICAL VISIBILITY BELOW ONE HUNDRED FEET <u>(13) NO CLOUD DETECTED</u> <u>(14) NIL SIGNIFICANT CLOUD</u> <u>(15) CLOUD AMOUNT AND HEIGHT UNKNOWN CUMULONIMBUS</u> <u>(16) CLOUD NOT AVAILABLE</u>	・廃止 (削除) ・自動化関連 ・自動化関連 ・自動化関連 ・自動化を契機に欠測表現を規定

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)		改正後 (改正第 16 号)		備考
8. 気温・露点温度 (1) 05/M02 (2) 00/00 (3) /////	8. TEMPERATURE・DEW-POINT (1) TEMPERATURE FIVE DEW-POINT MINUS TWO (2) TEMPERATURE ZERO DEW-POINT ZERO (3) TEMPERATURE AND DEW-POINT <u>UNSERVICEABLE</u>	8. 気温・露点温度 (1) 05/M02 (2) 00/00 (3) /////	8. TEMPERATURE・DEW-POINT (1) TEMPERATURE FIVE DEW-POINT MINUS TWO (2) TEMPERATURE ZERO DEW-POINT ZERO (3) TEMPERATURE AND DEW-POINT <u>NOT AVAILABLE</u>	・表現の見直し
9. 高度計規正值 (QNH) (1) Q1006/A2971 (2) Q/////	9. PRESSURE VALUES (1) QNH ONE ZERO ZERO SIX HECTOPASCALS TWO NINE SEVEN ONE INCHES (2) QNH <u>UNSEVICEABLE</u>	9. 高度計規正值 (QNH) (1) Q1006/A2971 (2) Q/////	9. PRESSURE VALUES (1) QNH ONE ZERO ZERO SIX HECTOPASCALS TWO NINE SEVEN ONE INCHES (2) QNH <u>NOT AVAILABLE</u>	・表現の見直し
10. ウィンドシアア情報 <u>イ</u>) WS R34L <u>ロ</u>) WS R01 <u>ハ</u>) WS ALL RWY	10. WIND SHEAR <u>a</u>) WIND SHEAR RUNWAY THREE FOUR LEFT <u>b</u>) WIND SHEAR <u>RUNAWAY</u> ZERO ONE <u>c</u>) WIND SHEAR ALL RUNWAYS	10. ウィンドシアア情報 <u>(1)</u> WS R34L <u>(2)</u> WS R01 <u>(3)</u> WS ALL RWY	10. WIND SHEAR <u>(1)</u> WIND SHEAR RUNWAY THREE FOUR LEFT <u>(2)</u> WIND SHEAR <u>RUNWAY</u> ZERO ONE <u>(3)</u> WIND SHEAR ALL RUNWAYS	・項番表現修正 ・誤記修正 (11/28 追加) (“RUNAWAY”→“RUNWAY”))
11. 記事 国内記事に使用する用語は、ICAO 略語、気象通報式用語等を使用する。 その他は平文で報ずる。 (1) RMK (2) 4CU020 (場外のみ) (3) /AC080 (場外のみ) (4) 1000NE (5) 1000N-NE (6) - 又は FBL (7) MOD (8) + 又は HVY (9) VC (10) P/RR (11) P/FR (12) RI++ <u>(新規)</u> <u>(新規)</u> <u>(新規)</u>	11. REMARKS (1) REMARKS (2) FOUR OKTAS CUMULUS TWO THOUSAND FEET (3) CLOUD AMOUNT UNKNOWN ALTOCUMULUS EIGHT THOUSAND FEET (4) VISIBILITY ONE THOUSAND METERS TO NORTHEAST (5) VISIBILITY ONE THOUSAND METERS NORTH THROUGH NORTHEAST (6) LIGHT (7) MODERATE (8) HEAVY (9) VICINITY (10) PRESSURE RISING RAPIDLY (11) PRESSURE FALLING RAPIDLY (12) REMARKABLE RAINFALL INTENSITY	11. 記事 国内記事に使用する用語は、ICAO 略語、気象通報式用語等を使用する。 その他は平文で報ずる。 (1) RMK (2) 4CU020 (場外のみ) (3) /AC080 (場外のみ) (4) 1000NE (5) 1000N-NE (6) - 又は FBL (7) MOD (8) + 又は HVY (9) VC (10) P/RR (11) P/FR (12) RI++ <u>(13) RI025</u> <u>(14) TSNO</u> <u>(15) TSCBNO</u>	11. REMARKS (1) REMARKS (2) FOUR OKTAS CUMULUS TWO THOUSAND FEET (3) CLOUD AMOUNT UNKNOWN ALTOCUMULUS EIGHT THOUSAND FEET (4) VISIBILITY ONE THOUSAND METERS TO NORTHEAST (5) VISIBILITY ONE THOUSAND METERS NORTH THROUGH NORTHEAST (6) LIGHT (7) MODERATE (8) HEAVY (9) VICINITY (10) PRESSURE RISING RAPIDLY (11) PRESSURE FALLING RAPIDLY (12) REMARKABLE RAINFALL INTENSITY <u>(13) RAINFALL INTENSITY TWO FIVE MILLIMETERS PER HOUR</u> <u>(14) THUNDERSTORM INFORMATION NOT AVAILABLE</u> <u>(15) THUNDERSTORM AND SIGNIFICANT CONVECTIVE CLOUDS INFORMATION NOT AVAILABLE</u>	・自動化関連 (11/28 修正 (“PAR”→“PER”)) ・自動化関連 ・自動化関連

航空気象通報式改正新旧対照表 (改正第 16 号 : H29. 3. 8 (一部 H29. 3. 2) 適用予定)

現行 (改正第 15 号)					改正後 (改正第 16 号)					備考
現在天気 PRESENT WEATHER					現在天気 PRESENT WEATHER					
QUALIFIER		WEATHER PHENOMENA			QUALIFIER		WEATHER PHENOMENA			
INTENSITY OR PROXIMITY	CHARACTERISTICS	PRECIPITATION	OBSCURATIONS	OTHER	INTENSITY OR PROXIMITY	CHARACTERISTICS	PRECIPITATION	OBSCURATIONS	OTHER	
— (弱 : Light)	MI (地 (霧) : Shallow)	DZ (霧雨 : Drizzle)	BR (もや : Mist)	PO (じん旋風 : Dust whirls)	— (弱 : Light)	MI (地 (霧) : Shallow)	DZ (霧雨 : Drizzle)	BR (もや : Mist)	PO (じん旋風 : Dust whirls)	
+	BC (散在 (霧) : Patches)	RA (雨 : Rain)	FG (霧 : Fog)	SQ (スコール : Squall)	+	BC (散在 (霧) : Patches)	RA (雨 : Rain)	FG (霧 : Fog)	SQ (スコール : Squall)	
VC (付近の : Vicinity)	PR (部分 (霧) : Partial)	SN (雪 : Snow)	FU (煙 : Smoke)	FC (ろうと雲 (竜巻) : Funnel cloud (tornado or water-spout))	VC (付近の : Vicinity)	PR (部分 (霧) : Partial)	SN (雪 : Snow)	FU (煙 : Smoke)	FC (ろうと雲 (竜巻) : Funnel cloud (tornado or water-spout))	
	DR (低い : Low drifting)	SG (霧雪 : Snow grains)	VA (火山灰 : Volcanic ash)	SS (砂じん嵐 : Sandstorm)		DR (低い : Low drifting)	SG (霧雪 : Snow grains)	VA (火山灰 : Volcanic ash)	SS (砂じん嵐 : Sandstorm)	
	BL (高い : Blowing)	PL (凍雨 : Ice pellets)	DU (じん : Dust (Widespread))	DS (砂じん嵐 : Duststorm)		BL (高い : Blowing)	PL (凍雨 : Ice pellets)	DU (じん : Dust (Widespread))	DS (砂じん嵐 : Duststorm)	
	SH (しゅう雨性 : Shower)	GR (ひょう : Hail)	SA (砂 : Sand)			SH (しゅう雨性 : Shower)	GR (ひょう : Hail)	SA (砂 : Sand)		
	TS (雷電 : Thunderstorm)	GS (雪あられ /氷あられ : Snow pellets /Small hail)	HZ (煙霧 : Haze)			TS (雷電 : Thunderstorm)	GS (雪あられ /氷あられ : Snow pellets /Small hail)	HZ (煙霧 : Haze)		
	FZ (着氷性 : Freezing)					FZ (着氷性 : Freezing)	UP (不明な降水 : Unidentified precipitation)			・自動化関連
IV. 特別観測の実施基準					IV. 特別観測の実施基準					
(略)					(略)					